

令和3年度

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

## 研究のまとめ

### 研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」

～主体的・対話的で深い学びを通して～



千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

## 目 次

1	はじめに	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会長	若林 雅夫	・・・	1
2	千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告				
	(1) 事務局			・・・	2
	(2) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会東京大会千葉県提案内容				
		技術分野	東葛支部	・・・	3
		家庭分野	船橋支部	・・・	7
3	各部活動報告				
	(1) 研究部			・・・	13
	(2) 情報部			・・・	14
	(3) 中学校部			・・・	16
		①	千葉県中学校技術・家庭科作品展		
		②	第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア		
		③	関東甲信越地区中学校技術・家庭科作品展		
		④	第21回ものづくり教育フェア関東甲信越地区大会		
		⑤	第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア		
	(4) 小学校部			・・・	18
4	各支部活動報告				
	(1) 千葉支部			・・・	20
	(2) 市原支部			・・・	22
	(3) 習志野支部			・・・	24
	(4) 八千代支部			・・・	26
	(5) 船橋支部			・・・	28
	(6) 市川支部			・・・	30
	(7) 浦安支部			・・・	32
	(8) 東葛飾支部			・・・	34
	(9) 印旛支部			・・・	36
	(10) 香取支部			・・・	38
	(11) 東総支部			・・・	40
	(12) 山武支部			・・・	42
	(13) 長生支部			・・・	44
	(14) 夷隅支部			・・・	46
	(15) 安房支部			・・・	48
	(16) 君津支部			・・・	50
5	令和2年度役員・地区理事一覧			・・・	52
6	編集後記			・・・	54

# 1 はじめに

千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会  
会 長 若 林 雅 夫

新型コロナウイルス感染は2年を越える期間に幾度かの波となり、その影響は多方面に及ぶ中、本部会をお支えいただく皆様の温かいご支援により今年度末を迎えようとしています。

さて6月25日に令和3年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会東総大会並びに定期総会を旭市立海上中学校、海上公民館で開催をする予定でありましたが、上記の感染防止対策の観点から紙面提案とさせていただきます。また7月の役員研修会の折に昨年度の活動・決算の報告や今年度の計画・予算など、資料を配布させていただきました。これまでの準備に向けて旭市、東総支部を始めとする大変多くの皆様のご協力、ご支援をいただきました。当日の授業展開、研究協議並びに総会の中止につきましては大変残念なことでありましたが、ご理解をいただき、感謝申し上げます。東総支部の授業提案、研究実践については別紙資料にて先日配布してあります。各学校での実践に是非ご活用ください。

また、本教科の成果を発表する場の一つとして「千葉県中学生創造ものづくり教育フェア」があります。今年度は11月13日に千葉県総合教育センターで開催する予定でしたが、これも感染防止の観点から白子町立白子中学校、千葉市立轟町中学校の2会場を中心に作品審査、オンラインによるプレゼンテーション、質疑応答による初めての形式による開催を実施しました。同様に「全国フェア」、「関東フェア」もオンラインによる形式で実施され、本県の生徒の皆さんの素晴らしい活躍がありました。

また7月5日に東金市立日吉台小学校を会場にして、各支部からの作品の出品の協力を得て千葉県技術・家庭科作品展審査会を行うことができました。約200点の作品の中から、千葉県教育長賞、千葉県技術・家庭科振興協会会長賞などを選出することができました。コロナ禍の中での各学校での昨年度の実践の成果を各作品に見ることができました。

今年度は、中学校で令和3年4月1日から新学習指導要領の全面実施となりました。新学習指導要領では、次代を担う生徒が、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となるとともに、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造し続けられるよう、資質・能力を育成していくことが求められています。本教科でも今回の改定の趣旨を生かし、題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、単に何かを作るという活動だけではなく、「技術の見方・考え方」「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動へと転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組まなければなりません。今回のコロナ禍での克服すべき問題解決も新たに表出してきました。新しい時代を生き抜く人材の育成の使命が私たちには求められています。

また、令和6年度に開催予定の関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会千葉大会に向けて、理事研修会での協議から指導を開始しました。今後もオンライン、対面の研修会等を含めて部会員相互の絆を深め、資質向上に向けて力を結集させていくことが大切だと考えます。

最後になりましたが、私たちの研究に心温まるご指導をいただきました関係各位並びに、本まとめにご執筆いただいた方々に心より感謝申し上げますとともに、今後の研究推進のために変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます、はじめの言葉といたします。

## 2 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会活動報告

### (1) 事務局

#### 1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

#### 2. 全国中学校技術・家庭科研究会・研究主題

明日の生活を工夫・創造し、実践する力を育てる  
「技術・家庭科」の教育の推進

### 3. 活動報告

令和3年

- 5月26日(火) 第1回役員研修会(千葉市立更科中 ※Zoomによるリモート会議)  
6月5日(土) 全日中技術・家庭科研究会理事会(東京都中央区銀座中 ※リモート)  
6月12日(土) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会理事研修会及び研究部研修会(台東区浅草中 ※リモート)  
6月 第1回小学校部会役員研修会(書面開催)  
6月25日(金) 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会東総大会・総会(旭市立海上中学校 ※書面開催)  
7月5日(月) 第2回役員研修会(東金市立日吉台小学校 体育館)  
千葉県中学校技術・家庭科作品展審査会  
8月2日(月) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア準備及び研修会  
10月1日(金) 第3回役員研修会(千葉市立更科中 ※Zoomによるリモート会議)  
10月6日(水) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア事前審査会  
~~10月 日( ) 同 教育フェア会場打ち合わせ(無観客開催のため中止)~~  
10月30日(土) 関東甲信越地区理事研修会(台東区浅草中 ※リモート)  
11月11日(木) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会東京大会理事会  
11月12日(金) 同 全体会(両国中学校 ※ライブ配信)、  
公開授業及び研究大会(都内公立中 ※オンデマンド配信)  
11月12日(金) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア前日準備  
11月13日(土) 第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア  
(白子町立白子中学校及び千葉市立轟町中学校)  
12月4日(土) 全国中学生創造ものづくり教育フェア関東甲信越大会神奈川大会  
(本部:湘南工科大学 ※リモート)

令和4年

- 1月22日(土) 全国中学生創造ものづくり教育フェア各県事務局長会議  
1月22日(土) 第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア  
23日(日) (本部:武蔵野総合体育館、作品・動画審査等 轟町中、他)  
2月10日(木) 第4回役員研修会(千葉市立更科中 ※Zoomによるリモート会議)  
2月2日(水) 第2回小学校部会役員研修会(県総合教育センター)  
2月12日(土) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会理事研修会及び研究部研修会(栃木市立大平中学校 ※リモート)  
2月19日(土) 千葉県中学生木工工作作品展準備・審査・展示  
20日(日) ※千葉県木材振興協会主催(千葉市科学館きぼーる)  
3月27日(日) 会計監査、役員選考会(ポートプラザちば)

※令和3年9月～令和4年3月 各地区作品展開催

## (2) 関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会東京大会千葉県提案内容

# 生活や技術を工夫し、持続可能な社会を創造する実践的な態度の育成

千葉県東葛飾支部技術・家庭科研究会  
流山市立東深井中学校 福永貴幸

### 1 はじめに

ねじ1本でも、きちんと作り、きちんと使うことは、工具を正しく使えないとできないことであり、現代の多くの中学生にとって難しいことであると感じる。それは、工具の使い方の知識を得る機会や使う経験が、日常生活で不足しているからではないか。授業では、工具をきちんと使うという知識や経験など、技術の基礎基本を授けることができ、この学びが持続可能な社会を創る基盤になると考える。また新しい学習指導要領においても、基礎基本が問題解決的に学習を進めていく際の基盤となる。そこで、基礎基本に立ち返った授業や指導方法を研究することで、生徒の実践的な態度の育成につなげていきたいと考えた。

### 2 研究のねらい

基礎基本の習得と定着を目指した授業や指導方法のあり方を研究の目的とし、目指す生徒像を次のように設定した。

- ・材料と加工に関する知識を身につけ、製作に活用できる生徒
- ・工具に関する知識と技能を習得し、製作に活用できる生徒
- ・持続可能な社会を創造するため、工夫し実践できる生徒

### 3 研究の内容

研究のねらいを達成するため、ポイントを「題材」「指導方法」「振り返りの方法」の3つに絞り実践を行った。今回は自校だけでなく、流山市内の中学校に協力してもらい、実践データをまとめた。

#### (1) 題材～マルチスタンド～

基本技能の習得と定着を軸に、生徒にとって取り組みやすい題材の選定をした。選定の際、技能習得のポイントは次のとおりである。

- ・さしがねを使用したけがきの方法から、作品精度

をあげることができる。

- ・両刃のこぎりの使用に関し、横びきと縦びきの両方の切断が数回できる。
- ・設計上修正しやすい作品になっている。

また、千葉県中学校創造ものづくり教育フェア「木工の技」に出場したい生徒の育成にもつなげたいと考えた。千葉県中学生創造ものづくり教育フェアが例年11月第2週に行われているが、全国中学生創造ものづくり教育フェア木工チャレンジコンテストの予選でもある。授業の題材として扱うことで、できる限り参加者を募って千葉県全体のものづくりに対するスキルアップにつなげていく機会にもなる。

以上から、授業で扱う題材は、過去に行われた千葉県中学校ものづくり創造教育フェア「木工の技」の課題を採用した。



図1 題材「マルチスタンド」

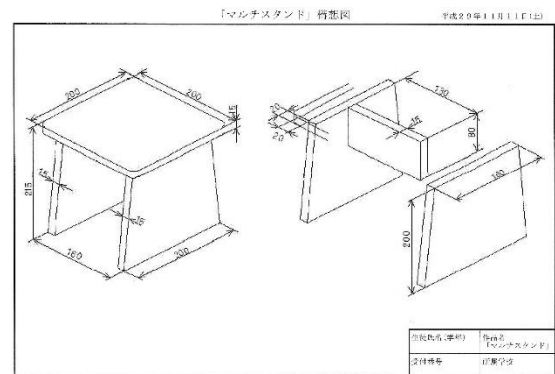


図2 マルチスタンド構想図

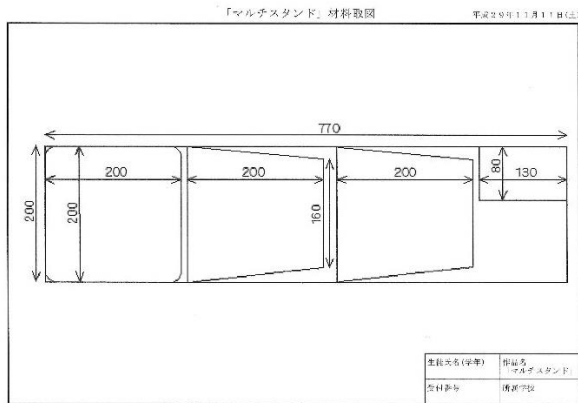


図3 マルチスタンド材料取り図

## (2) 指導方法

### ① 指導計画

指導計画は次のとおりである。作品の完成を組立てまでとし、20時間扱いで計画した。塗装は生徒の進捗状況に合わせて指導することとした。

表1 指導計画 (20時間扱い)

時数	学習内容
1	ガイダンス
1	材料の特徴
1	製図
3	けがき
3	切断
3	切削
3	穴あけ
3	組立て
2	製作の振り返り

### ② 指導の工夫1～けがきの下書き～

繊維方向の強度学習後、作品の完成等角図を配布し、図から寸法を読み取り、繊維方向を考えながら紙ベースに「けがきの下書き」を書かせた。その後、道具の説明を行い、木材の試験片に線を引き、切断し、あさりや切りしろのことを学習した。切りしろを考慮し、再度、紙ベースに「けがきの下書き」を書き、その中から切断回数を少なくする方法があることを生徒同士で比較し話し合わせて気づかせた。

### ③ 指導の工夫2～けがきでの寸法構想～

マルチスタンドの基本構造を変えなければ、寸法を変えても良いという条件でも実践を行った。その際は、SDGsの話をし、環境面に配慮する視点を学習してから、材料の無駄を最小限にした

作品を考えさせた。構想を練る時間をとり、生徒同士でも検討をしながら作業を進めさせた。



図4 けがきの様子

### ④ 指導の工夫3～切断でのタブレット活用～

流山市では、GIGAスクール構想により生徒一人一台のタブレットが貸与された。また教科書の内容も変わり、教科書内に記載されているQRコードを読み込むことで、工具の使用法の動画が見られるようになった。授業では、全体指導で実演を交えながら基本的な工具の使用法について教え、復習などの補助的な役割で活用した。また製作がうまくいかない場合は、生徒の作業の様子を撮影し、教科書の動画と比較させ、違いを考えさせた。ポイントがつかめない場合、姿勢や工具の動かし方の視点を教え、動画と一緒に確認しながら個別指導を行った。切断でタブレットの活用について指導を行ったが、その後の作業でも積極的に活用していくように促した。



図5 切断の様子

### ⑤ 指導の工夫4～切削での治具製作～

脚部部品の台形は、上底と下底の平行を調整することが難しく、仕上がり寸法線を意識できずに削りすぎてしまう生徒が多く出た。図6のようにさしがねを2つ用いて平行を点検する生徒が出てきたが、うまくさしがねを合わせられず、苦戦していた。



図6 さしがねを用いた平行の点検

ここで、簡単に平行が確認できるように、図7のようにT定規を用いて治具を作成した。



図7 T定規を用いた平行を点検する治具

### ⑥ 指導の工夫5～組立てでの隠し釘～

天板の組立てについて、安全面や機能面を考慮し、隠し釘を採用した。授業では、釘接合の天板と隠し釘の天板を用意し、グループ内で違いを検討させた。検討の視点として、安全や機能だけでなく、作る手間、コストなど、比較する点も考えさせ、総合的にどちらの方が製品と考えた時に価値が出るかという結論までグループで話し合わせた。



図8 隠し釘の作業①



図9 隠し釘の作業②

### (3) 振り返りの方法～ラーニング・ジャーナル～

令和元年度の茨城大会で発表されていた「ラーニング・ジャーナル」を実践した。ラーニング・ジャーナルは、学んだことを図や文章で表現し、さらに毎時間の課題解決も書き込んで生徒自身の思考を整理するためのツールであると認識している。授業の終わりに、片付けとまとめの時間設定をした中で書かせた。

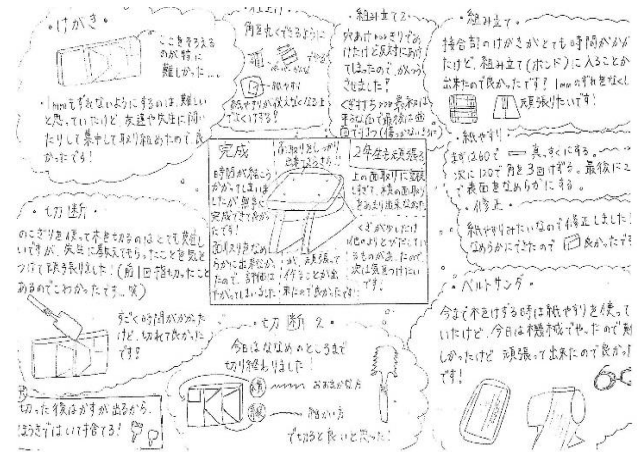


図10 ラーニング・ジャーナル

よく活用できている生徒がいる一方で、用紙の書き方のイメージがわからず、活用できていない生徒がいた。特に、授業の見通しが持っていないため、スペースを余らせていた。そこで、誰でも書きやすくなるような仕組みとして、タブレットに採用されている「ミライシード」の「オクリンク」というアプリを使用した。これは流山市で採用している授業支援アプリで、文字や写真などを用いて、自分の思考を整理することができる。まず各授業のまとめとしてタブレットに記録させる。記録したデータをつなぎ合わせると、マルチスタンド製作で学んだことをまとめたプレゼン資料ができあがるという流れであ

る。これを製作の振り返りとして、お互いに発表させる。

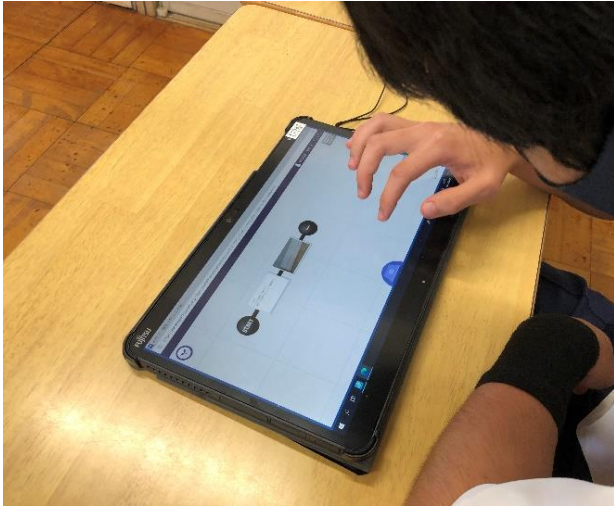


図 11 ミライシードのオクリンク

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

題材の選定について、失敗しても実践を通じて修正を学ぶことができ、基礎技能を高めるためにはとても有効であった。また部品数も少ないため、一つずつ丁寧に仕上げている。そして天板が正方形のため、繊維方向を意識した組立てが必要となり、構造と強度の学習の機会が増えたことも良かった。

けがきの下書きにより、生徒同士の話合いの機会が持て、新しい学習指導要領に則した授業展開をすることができた。タブレットの活用では、生徒の作業の様子を教科書の動画と比較する際、生徒同士でどこが違うのかを話し合う様子が多くみられた。これは自ら問題や課題を設定し、それらを調べ実践に生かす生徒の様子であり、問題解決する生徒の育成に活用することができる。またQRコードを読み取る際、教科書の該当ページを開く機会が増えたことで、動画を見る前に教科書で作業のポイントを確認し、動画を見ずに作業に戻った生徒もいた。治具は平行を確認するのに高い精度は出せなかったが、大まかな確認には活躍し、修正に入るタイミングを早めることができた。

ラーニング・ジャーナルについて、生徒自身で各作業のポイントを書き込み、振り返りや次回の授業へつなげられていた。これまでの実践では文字だけの振り返り用紙を活用していたが、図を多く取り入れることにより、より具体性を持って思考を整理できている様子がうかがえた。オクリンクの活用では、

作業過程の写真を自由に撮ることができ、文章量も容易に調整ができたのが良かった。また生徒はタブレット操作自体に意欲的だったので、作品を撮影したものにコメントを書くといった流れで、取り組みやすい様子が見られた。

### (2) 課題

題材について、日常生活で活用する際、汎用性が低いのが難点である。長い期間をかけて製作するので、家でも使いたいと多くの生徒が思える題材を考えていきたい。

指導計画について、20時間で行うとなると余裕がないため、授業をより効率的に進める指導方法が課題である。また、けがきの下書きの話合いは時間がかかったが、この話し合いは削らず生かしていきたい。今回教科書の動画は補助的に使用したが、これを主体とすれば効率化が図れると感じた。

ラーニング・ジャーナルについて、授業の状況によって、振り返りの時間をうまく確保できず、そもそも書けない生徒もいた。ラーニング・ジャーナルの活用について、教員自身が十分に理解できていなかったため、適切な授業展開や個別指導ができなかったところが一番の課題である。またオクリンクについては実践中のため、製作の振り返りに活用できるようにしていきたい。

## 5 おわりに

基礎基本に立ち返った授業や指導方法の研究として、簡単な構造の題材は適していると感じた。どんな技能を身につければ良いのかが、シンプルで伝えやすいし、生徒も分かりやすい。また新しい学習指導要領を意識して、問題解決的な話し合い活動を多く取り入れた。話し合いのツールとしてタブレットを活用した方が、生徒にとっては話し合いがしやすいように感じた。これは流山市全体でタブレット整備を進められたことが大きく、どの教科でも活用が進んでいけば、教員も生徒も使い慣れ、より一層効果的に活用できるだろう。特にオクリンクは、ラーニング・ジャーナルの一つ形として、有効性があると考えられた。

今回、基礎基本を研究することで、生徒の実践的な態度の育成に繋がると改めて感じられた。タブレットの活用など、新しいものを取り入れつつ、今後も研究を深めていきたい。



## 【実践記録】

# 住まい方の向上を目指し、主体的に調整し実践する生徒の育成

— 中学1年の家庭科のICTを活用した「住まいるBOOK」づくりの指導を通して—

船橋市立船橋中学校 教諭 大和田 千裕

## 1 はじめに

### (1) 住生活について

快適な住生活の実現は、心身の健康にも大きく影響を与えるものである。わたしたちは、生活環境や時代に適応しつつ、住まい方や生活様式を変えながら進化を遂げてきた経緯がある。戸建てや集合住宅など住む環境によっても大きな違いがあり、同じ様式の住まいでも、家族構成や生活スタイルによって住まいの課題は様々である。そのため、住まいの問題点や対策を一斉授業で一律に提示しても、全ての生徒に対応した深い学びへと繋げることは困難である。

また、よりよい住まい方の実現のためには学びを実生活に繋げ、解決しようとする姿勢を身につけさせる必要がある。

そこで、様々な学習様式を取り入れ反復学習を行うことで、多種多様な課題に対応できる基礎的・基本的な知識を定着させたいと考えた。

### (2) 主題の設定理由

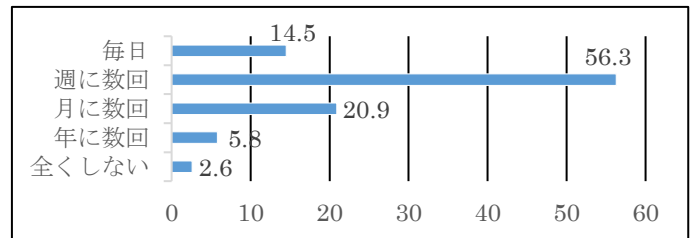
船橋市は、「生涯学び活躍できる環境を整え、生涯学習社会を実現する」「自立して、主体的に社会に関わることができる子供を育成する」以上の2つを教育目標に掲げ、教育行政を推進している。

GIGA スクール構想の新しい学びに向けた学習様式は、視覚的にわかりやすく情報を伝え、生徒自身が抱く疑問をより深く追求することができるため、学びの幅を広げ、興味・関心の向上に繋げることができる。ICTを活用する3つの学習場面」を活用し、問題を検討し解決する活動は、新しい時代や社会の変化へ適応するために必要な、思考力・判断力・表現力の育成に最適である。

そこで、本題材では住まい方の向上を図るために、安全・健康・快適の実現を目指す「住まいるBOOK」を作成した。それによって身につけた知識を活用し、「生活の課題と実践」をする中で、住まいが改善されていく確かな手応えを実感させ、主体的に自分の住まい方を工夫し、調整しようとする姿勢を身につけさせたいと思い、本主題を設定した。

### (3) 生徒の実態

住まいに対する関わり方の状況を把握するために10クラス358人に実態調査を行った。掃除や換気に関わる頻度を調査したところ、図1により、14.5%が「毎日」、56.3%が「週に数回」と、7割を超える人が住まいの向上に向けて頻繁に清掃などの活動に取り組んでいることが分かった。



〔図〕1 掃除や換気の頻度はどのぐらいか (%)

掃除や換気を行う理由を自由記述で記入したところ全体の35.9%が「汚いといやだから」、次いで27.1%が「快適に暮らしたいから」を理由に挙げていた。一方で、「年に数回」や「全くしない」など、取り組みの頻度が低い全ての生徒に共通して、「面倒だから」、「大変だから」というマイナスな理由を挙げる傾向にあった。

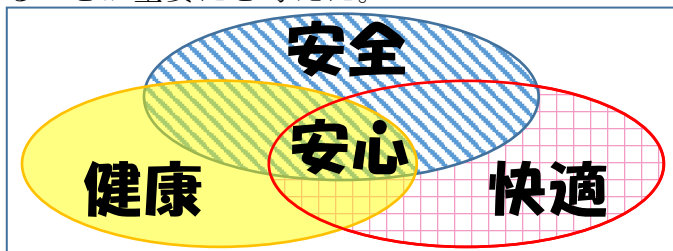
授業を通じて知識を積み重ねて行くことで、住まいの環境の重要性に気づき、主体的に調整したり、改善したりして快適な住まいづくりに関わろうとする意欲の向上に繋がると考えた。

## 2 研究のねらい

住まいは暮らしの基盤であり、生活を豊かにするものである。しかし、地域情報紙の「くらしの情報ふなばし165号」では、高齢化に伴う家庭内事故の発生件数が多いことを掲載したり、ニュースでは、新型コロナウイルスの家庭内感染の拡大を報道し、注意喚起を促したりすることで、住まいの中にも様々な危険があることを示している。また、日本の国土が地震・火山活動が活発な環太平洋帯に位置していることもあり、台風や前線活動等の気候条件により、暴風雨、洪水、土砂崩れが発生しやすく、膨大な被害をもたらす自然災害が頻発している。特

に千葉県は2019年に発生した台風15号による甚大な被害を受けたことで、自然災害に対する脆弱性が改めて浮き彫りとなった。安心した暮らしを送るためには図2で示すとおり、安全・健康・快適な環境を整えることが求められる。

そこで、各家庭の生活文化を継承するとともに、生活の中から問題を見出す課題を設定した。解決する実践的・体験的な学習活動により、「安心した暮らし」へ実感の伴う学びに繋げることが重要だと考えた。



〔図2〕住生活の学習の構想図

また、住まいの問題は多岐にわたるため、問題を継続的に解決していくためには、家族の協力が不可欠である。学習過程に「住まいの問題点を家族と検討する課題」を取り入れ、家族にも「安心できる住まい方」に目を向けてもらえるように促し、家族で対策を実践しやすい環境を整えた。

さらに、住まいの基本的な特徴や特性を理解し、安心できる住まいを目指して学びを深めることで、暮らしの質の向上に向けて主体的に調整をしようとする姿勢を身につけさせたい。

### (1)実践の柱とICTの活用

7つの学習形態で実践した。

- ①話し合い活動を通じた学習（協働学習）  
▶安心できる住まいについてグループ討議
- ②視聴覚教材を活用した学習（一斉学習）  
▶住まいの基本的な機能を教示
- ③家族と対話的な学習（家庭学習）  
▶キーワードについて家族に調査・相談
- ④調べ学習（個別学習）（協働学習）  
▶キーワードに関連する問題点と解決策を「住まいるBOOK」にまとめる
- ⑤情報を共有する学習（個別学習）  
▶「住まいるBOOK」で情報を共有  
▶生徒間でクイズを出題・知識の確認
- ⑥家庭で実践する学習（家庭学習）  
▶「住まいるBOOK」で家族と情報を共有  
▶情報を活用した「生活の課題と実践」
- ⑦情報を整理する学習（一斉学習）  
▶ワークシートで確認とまとめ

①では、学習の核となる「安心できる住ま

い」をテーマに話し合い活動を行った。連想されるワードを **jamboard** に書き出し、それを活用して意見交換を行った。

②では、住まいの基本的な機能を確認するために、**パワーポイント**を利用して一斉指導を行った。関連したイラストや図、絵本などの教具を投影し、可視化して説明することで、住まいのはたらきや役割をスムーズに理解しやすくした。

③では、一人一人に住まいに関連するキーワードを割り当て、「安心できる住まい」の実現のために、住まいに潜む問題点を検討し、その後、家族に実践している対策の聞き取り調査を行った。課題や対策を家族に相談することで、家庭で実践している生活文化の継承をしたり、対策のできていない箇所に気づき、家族と共に検討したりすることができるようにした。

④では、キーワードに関連する情報をさらに深めるために、**インターネット**での調べ学習を行った。住まいにどのような危険が想定できるか、「安全・健康・快適」な住まいづくりのために、どのような具体的対策を講じればよいのかを **Google スライド**にまとめた。Google ドキュメントに比べ、テキストボックスやイラストなどの配置をレイアウトしやすいため、構図を自由に考えてまとめられるようにした。また、レポート作成にあたり、必要に応じて生徒自身が **Google フォーム**を活用して、クラスの実態調査を行うことができるようにした。

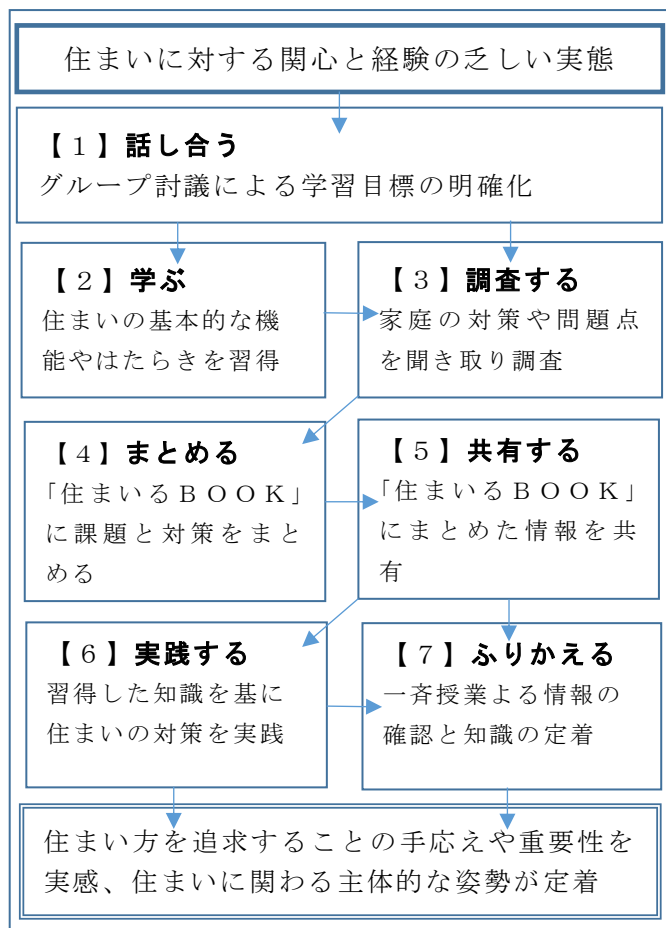
完成した生徒から **ロイロノート**のテストを活用し、**Google スライド**に関連するクイズを作成した。これにより、レポートの要点の整理と完成までの進度差を調整した。

⑤では、「住まいるBOOK」を読み合う活動を行った。読み進めながら、自分の家庭の問題点をチェックすることで、自分の住まいの課題に気づくことができる場とした。読み終わった生徒から、**ロイロノート**のテストで作成したクイズを解き合うことで、振り返りの学習ができるようにし、学習の定着を図った。

⑥では、これまでの学習で得られた知識の実践をする場とした。⑤で得た知識をもとに、我が家の住まいの問題点を検討し、改善するための対策を立て、家庭で実践した。

⑦では、「住まいるBOOK」の要点をまとめたワークシートを使用し、**パワーポイント**でまとめの学習を行った。これにより、レポ

ートによる情報の過不足を補足し、クラスごとに生じた差を補えるようにした。



[図 3] 7つの柱の学習の構想図

## (2) 「住まいるBOOK」の活用

住まいの対策・改善は、大きな災害や被害を受けてからでは手遅れである。そのため日頃から暮らしにおける様々な危険やリスクを予測し、適切な備えをすることが必要である。また、住まいや家族構成は時間の経過と共に変化するものである。現在の住まいや家族構成に限らず、様々な世代や家族構成を想定した、柔軟な対応力や知識を身につけることが必要である。

「住まいるBOOK」の作成にあたっての留意点は、割り当てられたキーワードに対して、どのような危険性が考えられるのかを予測し、適切な対策を見つけることである。住まいに潜む危険性と向き合い、備えを確かなものとするために適切な解決策を導き出す活動や、それぞれがまとめた情報を共有する取り組みは、住まい方に対する思考力や判断力を育むために、有効な手段の一つだと言える。家族に相談や聞き取りを行ったり、パソコンで情報を収集したりする活動を行う中で、多くの情報から最適な方法を選択し、自力で解決できる力を身につけさせたい。

班ごとに設定したテーマに向けて行う「住ま

いるBOOK」づくりは、個人の活動でありながら、同じ目的に向けて連帯感を持って取り組むことができる、グループ活動でもある。また、調べた内容を発表することなく、情報共有することができるため、感染予防の観点から効果的な発信形態と言える。加えて、発表原稿の作成や発表練習の時間が短縮でき、発表時の個人差による声の聞き取りづらさや欠席等による聞き漏らしを避けることもできる。

テーマごとに作成された「住まいるBOOK」は、重要事項にアンダーラインなどを入れたり、何度も繰り返し読み返したりすることが可能である。また、授業後に持ち帰ることができるため、家族と容易に情報を共有したり、活用したりすることもできるようになる。例えば、「地震などの災害対策」に関しては非常用持ち出し品の1つとして活用できるほか、「幼児や高齢者の家庭内事故」は、祖父母や幼児のいる家庭に渡すことで、授業終了後も多くの人と情報を共有し、幅広く活用することが可能である。

住まいの安全対策は、簡単に実践することが困難なものも多い。そのため、繰り返し身近な人を引き込み、一緒に検討することが重要となる。対策について対話を重ねていくことは、家族全体の住まい方に対する意識の向上に繋がり、継続的に実践しやすい環境を整える取組だと言える。

## 3 研究の内容

### (1) 1校時【柱1】話し合う(協働学習)

めあて：安心できる住まいについて考えよう

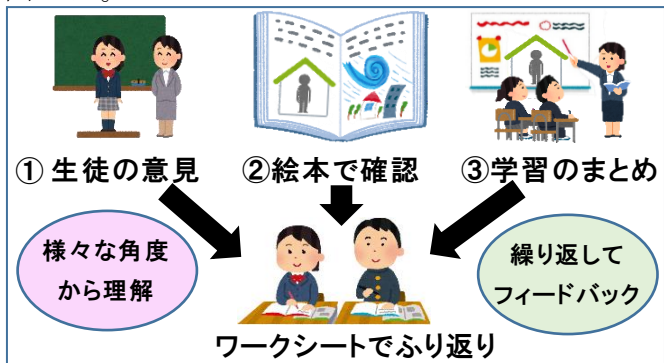
よりよい住生活の実現に向けて、「安心できる住まい」の環境を整えることは必要不可欠である。住まいに求められる「安心」の要素は多種多様であり、家庭環境や生活様式によっても異なる。グループ討議は、「安心できる住まい」に対する様々な考え方を共有し、学習に向けた動機づけと視野を広げることがねらいとしている。事前に話し合うときのキーワードをJamboardにまとめ、可視化した情報を見ながら討議を行うことで、10分程度の限られた時間でも、情報を整理した充実した話し合い活動を行うことが可能である。要点をまとめた話し合い活動は、感染予防の観点からも有効だと言える。グループ討議の後に「安心できる住まい」についての考え方をまとめることで、今後の学習に向けた具体的な目標を掲げられるようにした。



[写真1] Jamboardを利用している様子  
(2) 2校時【柱2】学ぶ(一斉学習)

めあて：住まいの働きを知ろう

学習指導要領では、住まいの基本的な機能を満たすために、様々な知恵や工夫があることを理解させることを求めている。住まいのはたらきを定着させるにあたって、3つの方法で学習した。①住まいのはたらきに気づかせるために「暮らしから住まいがなくなると、何に困るか」という問いかけにより、数多くの住まいのはたらきに関連する情報を引き出した。②住まいの様々なはたらきを描いた絵本「あなたのいえ わたしのいえ」を、スクリーンに映し範読することで、視覚的にはたらきを確認できるようにした。③パワーポイントを使用した講義で基本的な住まいのはたらきを確認した。1つの内容に対して様々な視点から、ICTの視覚的効果を利用して学習することで、知識の定着を図った。



[図4] 学習の定着を図るための一連の流れ  
(3) 宿題【柱3】調査する(家庭学習)

めあて：家族に住まいの工夫を調査しよう

班ごとに住まいに関するテーマを1つ決定し、一人一人に関連するキーワードを分担した。事前に6班分テーマと人数分のキーワードを用意することで、短時間の話し合いで、スムーズに分担ができるようにした。

各キーワードの担当者は住まいを「安全・健康・快適」にするために必要な情報を検討し、家族にキーワードに関連する住まいの問題点や家庭で実践している対策の聞き取り調査を行った。これは住まいの知識を他者の異なる視点から対話的に検討する活動であり、家族から生活文化の継承を受けたり、住まいの問題を検討したりする場でもある。対話的な活動を家族と行うことで、自分の家庭の住まい方の工夫や知恵

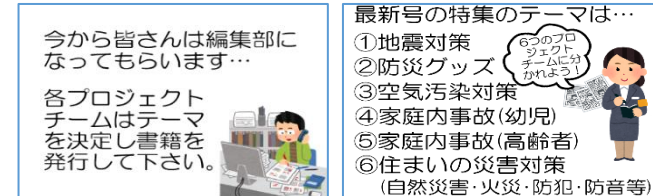
に気づくことができた。また、家族と住まい方の振り返りを行うことで、家族とよりよい住まい方について検討する足掛かりとなるものとした。

(4) 3～5校時【柱4】まとめる(個別・協働学習)

めあて：危険と対策をレポートにまとめよう

レポートの作成にあたり、各班を出版社のプロジェクトチームに見立てて活動を行った。住まいの情報誌の特集記事を書くという設定のもと、ベストセラー本を目指し、読者の視点に立った読みやすい記事になるよう促した。

レポートは、危険の要因と対策の関係性について理解してまとめる必要がある。文章を延々と書くのではなく、イラストや図などの関連情報を入れて、読者を意識した要点のまとまった記事を書くように指導した。

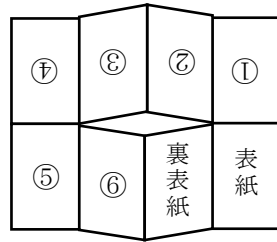
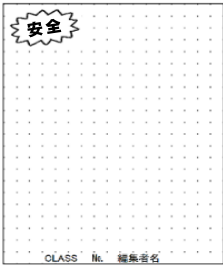


[図5] パワーポイントの例

「住まいるBOOK」の作成は、班ごとに1冊の本にまとめる目標があるため、課題に対して一緒に作り上げようとする連帯感を生むことができる活動である。班員同士で、期日に間に合うように、声を掛け合いながら作業をする姿が見られた。さらに、早く書き終えた生徒が出版のプロジェクトリーダーとなり、本の内容が伝わりやすくなるように、仕上げに向けて作業を進めていた。例えば、表紙に載せるタイトルやイラスト、本の帯に書くセールスポイントなど、他の作業を終えた班員に指示を出しながら取り組むことができた。これは、作業の進度差を埋めることにも繋がった。また、個人の活動のため、学校を休みがちな生徒も各家庭で課題に取り組むことができた。

レポートはGoogleスライドを利用して作成をしたが、パソコンに不慣れな生徒もいるため、紙媒体の原稿も用意した。A4サイズ of 原稿は、A3サイズに8枚集約を行うため、A6サイズに縮小されることを想定して記入する必要がある。誰でも同じサイズの文字や真っ直ぐなグラフを記入できるように、レポート用紙は1cm置き of 薄い色の小さなドットを印刷した。これによって文字のサイズが統一された見やすいレポートを作成することができた。また、読み手に本のキーワードを明確に伝えることができるように、レポートの吹き出しに「安全・健

「健康・快適」の一つを選択し記入できるようにした。

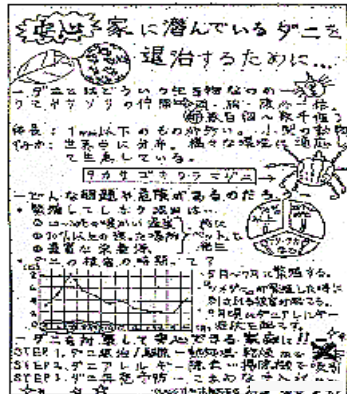
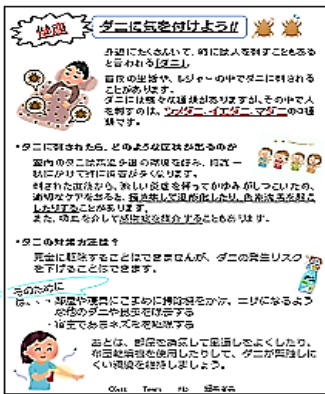


[図6] 手書きレポート用紙 [図7] 製本方法  
(5)6~7校時【柱5】共有する(個別学習)

めあて: 「住まいるBOOK」を読んで住まい方に役立つ情報を見つけよう

レポートを製本し、情報交換を行った。ワークシートに各キーワードのチェックリストを載せておくことで、読み終わった後に自分の家庭の問題点を簡単に把握できるようにした。

全員分のレポートを読むことは大変な活動のようにも思えるが、単行本のような本になっていることにより、朝の読書タイムと同様に黙々と読み進めることができた。また、家族に伝えたいことや気になる情報については、マーカーを引き、自分だけの情報誌として、精読することができた。



[図8] PCの原稿 [図9] 手書きの原稿

本を読むという形態で情報共有を行うことにより、声を発することなく、感染予防に配慮して情報を発信する場を設けることができた。本を読み終えた生徒から、ロイロノートで作成したクイズを解き合う活動を行った。クイズを解くことにより、基礎的・基本的知識を楽しく定着させることができた。

完成した本は司書に協力を得て、図書室にも掲示を行った。これにより他クラスの資料を見ることができるようになり、該当学年だけでなく、全校生徒へ住まいに役立つ情報を周知することができた。



写真2 クイズを解く姿 写真3 図書室の掲示

◆生徒の感想

- ・中学生目線の本なのでわかりやすかった。
- ・これから実践してみようと思うものが本当に沢山あり、何度も読みたいと思った。
- ・自分の家の問題がいくつか出てきたので、長期休みに家族と相談して実行し、安心して暮らせる家づくりをしたいと思います。
- ・この本で分かったことを祖父母や親戚など多くの人に伝えて、安心・安全な暮らしをしてもらいたいと思う。

(6)課題【柱6】実践する(家庭学習)

めあて: 「住まいるBOOK」を活用して、住まい対策をしよう

学んだ情報を活用して、「生活の課題と実践」ができる場を設定した。住まいの学習は単に情報を詰め込むだけでは、生活に繋がる有効な学習とは言えない。本づくりを足がかりとして、住まいの問題点を見つけ、実態に合わせた対策を選択し、調整することが必要である。これにより、実態に応じた学習の個性化をすることができた。

◆生徒の感想

- ・家族の一員として積極的に住まいの対策をしていけたらなと感じることができた。
- ・自宅から避難経路の間に多くの危険があることを知ったので、学習を生かして自分や家族の命を守れるようにしたい。

◆保護者からのコメント

- ・家族で災害について話し合う良い機会になりました。今後も一緒に考えていきます。
- ・子供が色々と質問してきて嬉しかった。
- ・大人が見逃している住まいの課題に気が付いてくれて助かりました。
- ・早速子供を中心に住まいを見直していこうと思います。

(7)8校時【柱7】ふりかえる(一斉学習)

めあて: 住まいの対策をふりかえろう

本に掲載された情報がクラスごとに異なるため、まとめ学習を行った。パワーポイントと内容がリンクした穴埋め式のワークシートを使用することで、短時間で復習ができるようにした。この学習方法は、ワークシートに記入する場所が明確なため、支援の必要な生徒に対する合理的配慮も可能である。また、板書の短縮が



### 3 各部活動報告

#### (1) 研究部

##### 1 活動内容

- ・千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会における研究推進
- ・各支部における研究協力及び研究支援
- ・各支部における研究成果を集約した「研究のまとめ」の発行

##### 2 活動日程

令和3年

5月26日(水) 第1回役員研修会

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催

6月25日(金) 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会定期総会並びに研究大会東総支部大会・作品展

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、資料提案に代替、作品展は第2回役員研修会日に変更

7月5日(火) 第2回役員研修会

9月25日(金) 第1回「研究のまとめ」編集会議

10月1日(木) 第3回役員研修会

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催

11月13日(土) 千葉県中学生創造ものづくり教育フェアに向けた役員研修会

12月10日(金) 第2回「研究のまとめ」編集会議

令和4年

1月7日(金) 第3回「研究のまとめ」編集会議

1月21日(金) 第4回「研究のまとめ」編集会議

2月10日(木) 第4回役員研修会

##### 3 取り組みについて

本年度も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響で、各支部を含め、例年行っていた活動が中止や縮小になってしまった。記録として例年作成している「研究のまとめ」は作成することにしたが、本年度も中身の薄いものとなってしまった。

第2回役員研修会において、令和6年度関ブロ千葉大会での分科会提案支部を確定することができた。

##### 4 課題

- ・本年度より全面実施となった学習指導要領の実践に向け、各支部の研究活動に積極的に関わり、支援していく。
- ・令和6年度関ブロ千葉大会に向け、全体研究を推進し、また、各支部の研究活動を支援していく。

## (2) 情報部

### 1 情報部の活動内容

千教研技術・家庭科部会の Web ページ (GI☆KA CHIBA) の管理・更新を主な活動とする。

#### (1) 各支部のページについて

- ① 各支部からの更新データ (題材例など) について, 登録 (更新) とメニューへのリンクを行う。また, 要請に応じて各支部 Web ページ作成の支援を行う。
- ② 支部ページのデータ収集やページの作成, 更新データの送付は各支部の責任で行う。

#### (2) その他のページについて

- ① 主催・共催行事等の案内を中心に, 各部・事務局からの要請により, 部員や県外の先生方への情報提供を行う。
- ② 県総会, ものづくりフェアなどの開催の様子について取材し, Web ページ上で報告する。

### 2 活動日程

- (1) 5月26日(水) 第1回役員研修会 オンライン
- (2) 7月5日(月) 第2回役員研修会 千葉県中学校技術・家庭科作品審査会取材
- (3) 10月1日(金) 第3回役員研修会 オンライン
- (4) 11月13日(土) 第17回 千葉県中学生創造ものづくり教育フェア 取材
- (5) 2月10日(金) 第4回役員研修会
- (6) 2月19日(土) 中学校木工工作作品展取材

### 3 Web ページの更新について

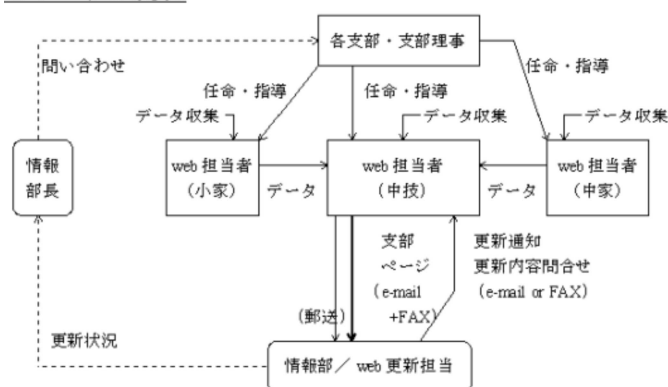
#### (1) 各支部ページの更新について

- ・支部ページは支部理事の責任で更新する
- ・Web 担当者は, 支部理事の指導のもとに年1回以上の更新を行う。
- ・支部トピックス (支部の紹介話題, 取組等) でデータを充実させる。
- ・他県や他支部に紹介する題材例の掲載。
- ・指導上有効な教具などについても積極的に掲載していく。



#### 各支部のページ作成に関するお願い

##### ○データの流れ



#### (2) その他のページの更新について

- ・他部門の要請があれば専用ページを作成する。
- ・トップページを中心に, 「ものづくりフェア」や研究大会等の情報を随時更新する。
- ・過去の研究大会における指導案を記録する「指導案アーカイブス」の準備を進める。



### (3) 課題

新学習指導要領に適合した、Web ページの修正が数年来の課題である。研修会などを通じて、内容の再確認をお願いしているが、支部から発信されている情報の修正（旧指導要領下の題材例など）がなかなか進まないのが現状である。

技術的に Web ページ更新が難しい支部等があれば、個別に対応可能である。

各支部 web ページ用データの送り方（随時登録・更新）

○ gikachiba.jyoho@gmail.com（千教研情報部専用アドレス）

### 4 今年度を振り返って

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、県総会が中止となり、中学生創造ものづくりフェアもオンライン開催となった。積極的な情報発信を行うことができなかったが、Web ページによる情報発信は、そのような状況下においても有効なツールであると考えます。

今後もより一層（GI ☆ KA CHIBA）の充実を図るために、各支部 Web ページ担当者や支部理事との連絡を密にして、作成を進めていきたい。また、研修会の折に支部の web 担当者の方々からいただいたアイデアを実現する努力をしていきたい。

#### 【令和3年度情報部】

部長：野村英二	所属：佐倉市立佐倉東中学校
副部長：佐野貴紀	所属：木更津市立清川中学校
部員：藤田伸平	所属：香取市立栗源中学校
部員：依田実	所属：船橋市立御滝中学校
部員：菅整	所属：千葉市立大椎中学校
部員：君塚久美	所属：千葉市立新宿小学校

(3) 中学校部

① 千葉県中学校技術・家庭科作品審査会（7月5日 東金市立日吉台小学校）

「令和3年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会並びに定期総会」の開催に合わせて、東金市立日吉台小学校にて開催しました。各分野の優秀な作品に対して、特別賞（千葉県教育委員会教育長賞、千葉県教育研究会技術・家庭科振興会長賞）を与えるとともに、在校生作品を全国フェアへ出品しました。

令和3年度 千葉県技術・家庭科作品展 入賞者一覧

※学年は今年度

No.	分野	特別賞	出品先	支部	学校名	生徒氏名	作品名	学年
1	技術	県教育長賞	全国	八千代	八千代市立八千代中学校	森 輝	マルチラック	2年
2	技術	県振興会長賞	全国	長生	白子町立白子中学校	斉藤 妃依莉	本立て	2年
3	技術	県振興会長賞	全国	東葛飾	我孫子市立布佐中学校	芦 康介	ファイル入れ本棚	2年
4	技術	県振興会長賞	/	船橋	船橋市立飯山満中学校	新田 芽久	ミニ本立て	3年
5	技術	県振興会長賞	/	船橋	船橋市立御滝中学校	大澤 真桜	ペンケース	2年
6	技術	県振興会長賞	/	市川	市川市立高谷中学校	日向 凜	本立て	2年
7	技術	県振興会長賞	/	山武	山武市立松尾中学校	大木 啓史	棚	2年
1	家庭	県教育長賞	全国	千葉	千葉市立小中台中学校	多田 帆乃果	おじいちゃんの防災ベスト	3年
2	家庭	県振興会長賞	全国	千葉	千葉市立泉谷中学校	吉田 理良	アイデアリメイクショルダーバッグ	2年
3	家庭	県振興会長賞	/	千葉	千葉市立葛城中学校	須藤 聡子	もも柄2WAYリボンショルダー	2年
4	家庭	県振興会長賞	/	千葉	千葉市立小中台中学校	神野 百香	傘で作ったリバーシブルエコバッグ	3年
5	家庭	県振興会長賞	/	夷隅	御宿町立御宿中学校	貝塚 心渚	防災バッグ	3年
6	家庭	県振興会長賞	/	夷隅	御宿町立御宿中学校	佐藤 すみれ	ファイルカバー	2年
7	家庭	県振興会長賞	/	長生	茂原市立茂原中学校	磯野 未来	お買い物セット	3年
令和2年度作品	家庭	県振興会長賞	全国	君津	君津市立君津中学校	北村 優依	リバーシブルトートバッグ	3年

※第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア生徒作品コンクール

(令和4年1月21日 [審査会場] 武蔵野総合体育館⇒Webによる写真・レポート審査に変更)

 <p>「マルチラック」 八千代市立八千代中学校 森 輝 【I部門出品】</p>	 <p>「本立て」 白子町立白子中学校 斉藤 妃依莉 【I部門出品】</p>	 <p>「ファイル入れ本棚」 我孫子市立布佐中学校 芦 康介 【I部門出品】</p>
 <p>「おじいちゃんの防災ベスト」 千葉市立小中台中学校 多田 帆乃果 【II部門出品】</p>	 <p>「アイデアリメイクショルダーバッグ」 千葉市立泉谷中学校 吉田 理良 【II部門出品】</p>	 <p>「リバーシブルトートバッグ」 君津市立君津中学校 北村 優依 【I部門出品】</p>

②第17回千葉県中学校創造ものづくり教育フェア

(令和3年11月13日〔審査会場〕技術分野：白子町立白子中学校・家庭分野：千葉市立轟町中学校)

(ア)「木工チャレンジコンテスト」

木材加工の基礎的・基本的な技能を競うために、「マルチラック」(一枚板で製作する机の上を整理・整頓できるもの)を製作しました。

※製作図・製作作品とプレゼンテーション(ビデオ)により審査を実施。

(イ)「アイデアロボットコンテスト」

基礎部門「Ace in the hole」、計測・制御部門「お掃除ロボット2021」、応用・発展部門「ロボット防災出動!」の3部門で、ロボットの性能と操作技術を競い合いました。全ての参加チームの中からアイデアに優れた1チームが『ロボコン大賞』に選出されました。また、各部門からは、優勝・準優勝チームと審査員特別賞に選出された1チームが関東フェアに出場を果たしました。

※競技動画とプレゼンテーション(オンライン)により審査を実施。

(ウ)「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール

縫製の基礎的・基本的な技能を競うために、『バッグ』製作しました。第1位と第2位に選出された2名が関東フェアに出場を果たしました。

※レポート・製作作品とプレゼンテーション(オンライン)により審査を実施。

(エ)「あなたのためのおべんとう」コンクール

栄養バランスや食べてもらう相手のことを考えた献立をレポートにまとめ、調理動画を製作しました。

※レポートによる1次審査と、調理動画・プレゼンテーション(オンライン)により審査を実施。

【木工チャレンジコンテスト部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名
第1位	長生	白子町立白子中学校	小澤 翔太
第2位	東葛飾	流山市立西初石中学校	村上 偉大
特別賞	東葛飾	流山市立西初石中学校	馬場 円花

【ロボットコンテスト部門】 結果一覧

ロボコン大賞：微男連合(松戸市立小金中学校)

「基礎部門」

順位	支部名	学校名	チーム名
第1位	習志野	習志野市立第一中学校	to y a n o
第2位	東葛飾	松戸市立小金中学校	微男連合
特別賞	東葛飾	野田市立岩名中学校	T and K

「計測・制御部門」

順位	支部名	学校名	チーム名
第1位	東葛飾	松戸市立小金中学校	Maritozzo
第2位	東葛飾	松戸市立小金中学校	チーム橋陽
特別賞	東葛飾	松戸市立小金中学校	G X

「応用・発展部門」

順位	支部名	学校名	チーム名
第1位	習志野	習志野市立第一中学校	疾風 ver. Helfer
第2位	習志野	習志野市立第一中学校	Help me!

【アイデアバッグコンクール部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名
第1位	東葛飾	松戸市立第一中学校	相澤 灯子
第2位	夷隅	御宿町立御宿中学校	山田 陽花
第3位	千葉	千葉市立朝日ヶ丘中学校	角谷 優菜

【あなたのためのおべんとうコンクール部門】 結果一覧

順位	支部名	学校名	生徒名
第1位	千葉	千葉市立葛城中学校	須藤 聡子
第2位	千葉	千葉市立葛城中学校	石田 一花
第3位	千葉	千葉市立葛城中学校	伊藤 杏美

③第21回全国中学校創造ものづくり教育フェア〔令和4年1月22日(土)〕

【入賞者一覧】

- ・文部科学大臣賞(全国1位) 石田 一花(千葉市立葛城中学校) 〈部門：おべんとう〉
- ・特許庁長官賞(全国3位) 多田帆乃果(千葉市立小中台中学校) 〈部門：生徒作品〉
- ・(公財)つくば科学万博記念財団 理事長賞 須藤 聡子(千葉市立葛城中学校) 〈部門：おべんとう〉
- ・全国家庭科教育協会会長賞 北村 優依(君津市立君津中学校) 〈部門：生徒作品〉
- ・女子栄養大学学長賞 相澤 灯子(松戸市立松戸第一中学校) 〈部門：アイデアバッグ〉

(4) 小学校部 (支部数 12 会員数 108)

千葉県小学校家庭科教育研究会 活動概要

今年度は、来年度、船橋市立習志野台第二小学校において第38回千葉県小学校家庭科教育研究会千葉大会を開催にあたって、そのための研修会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症大防止のため、校内での研修会とした。活動内容を決める事務局会議を行った。

1 研究の概要

千葉県小学校家庭科研究会研究主題

家庭生活を見つめ、豊かな家庭生活を創り出す家庭科教育  
— 学び合い、関わり合いながら生活をよりよくする児童の育成を目指して —

めざす児童の姿

- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている子
- 日常生活の中から課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている子
- 家庭や地域との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する子

研究の視点

視点 1

指導計画の工夫

- (1) 2 学年間を見通し、中学校との系統性をふまえた指導計画
- (2) 他学年及び他教科等の内容との関連
- (3) 家庭や地域との関わりを大切にした題材構成

視点 2

関わり合いながら学びを深める学習指導の工夫

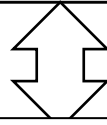
- (1) 学習過程を工夫した問題解決的な学習
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- (3) 思考過程を可視化できる思考ツールやワークシートの活用

視点 3

自己の成長を実感できる評価の工夫

- (1) 資質・能力を高めるための評価計画の作成
- (2) 自分の成長に気付く評価の工夫 (自己評価・相互評価・保護者評価等)

# 持続可能な社会の構築に向けた教育



## 家庭科で目指す資質や能力

### 知識・技能

日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能

- ・家庭生活と家族についての理解
- ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能
- ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能

### 思考力・判断力・表現力等

日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力

- ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力
- ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力
- ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力

### 学びに向かう力・人間性等

家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度

- ・家庭生活を大切にしている心情
- ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度
- ・生活を楽しまうとする態度
- ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

## 2 本年度の活動

- 5月 2日（土）事務局会（千葉市立生浜西小学校）
- 5月 14日（金）全国小学校家庭科教育研究会理事会 紙面開催
- 7月 9日（金）第38回千葉県小学校家庭科教育研究会千葉大会 打ち合わせ  
（船橋市立習志野台第二小学校）
- 8月 6日（金）事務局会（千葉市立生浜西小学校）
- 8月 17日（火）事務局会（千葉市立生浜西小学校）
- 10月 22日（金）全国小学校家庭科教育研究会全国大会宮城大会 オンライン開催
- 11月 30日（火）小学校家庭科教育研究会関東甲信越地区大会埼玉大会  
オンライン開催
- 12月 27日（月）事務局会（千葉市立生浜西小学校） 予定
- 1月 15日（土）事務局会（千葉市立生浜西小学校） 予定
- 2月 2日（水）千葉県小学校家庭科研究会総会・研修会 予定
- 3月 事務局会・次年度計画

## 3 成果と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大のため、全国大会・関ブロ大会がオンライン開催となった。
- 中学校でも新学習指導要領が全面実施となり、授業の改善や指導計画の見直しが必要である。学習の中に実践的な活動を位置づけるための工夫も必要だと考える。

## 4 各支部活動報告

### (1) 千葉支部

(学校数：54校 会員数：技術科44名、家庭科40名)

技術分野

#### 1. 千葉市支部研究主題

よりよい生活や持続可能な社会の構築を目指して、  
生活を工夫し創造する実践的な態度を育成する技術・家庭科教育の在り方  
～見方・考え方を働かせる学習を通して～

#### 2. 主題設定の理由

千葉市支部（技術分野）では、本教科の目標にある「よりよい生活」を実現するために、社会で求められている「持続可能な社会」の構築について学校教育ができることを視点に学習内容の在り方について研究を進めたいと考え、主題を設定した。

学習への関心・意欲の向上や学習した内容を生活に活かすことができるよう、生徒にとって身近であると感じられる題材を設定し、生活に取り入れられるような授業展開の工夫をした。生徒が必要な知識、技能を身に付けつつ、「技術の活用」が進められるような技術・家庭科教育の在り方の研究を目指した。

#### 3. 研究の概要

##### (1) 研究仮説

- 【仮説1】3年間を見通し、環境との関連が図れる題材を系統的に配列すれば、技術の見方・考え方を働かせて課題を解決する力の基礎となる知識・技能の定着が図れるだろう。
- 【仮説2】実践的・体験的な学習活動の中で、意図的に環境に関連させた学習の場を増やせば、現代的な課題に対する「技術的な課題解決力」が身につくであろう。
- 【仮説3】生徒を惹きつける題材や学習過程の工夫を図れば、学習に対する成就感・達成感が高まり、実践的な態度が身につくであろう。

##### (2) 仮説の検証

- ① 仮説1について：内容Bにおいて、「ワタの栽培」を題材として検証授業を行った。ワタの収穫量を増やすことを課題とし、ワタの生育状況から問題点を見つけ、解決するような授業展開を繰り返すことで、学習した知識・技能を活用できるように指導計画を立てた。
- ② 仮説2について：内容Dにおいて、技術的な視点でのネットトラブルの防止・解決方法を考える授業を行った。端末に込められた技術について考えることで、社会的な問題に対する対処方法を技術の見方・考え方を働かせながら考えた。
- ③ 仮説3について：内容Bにおいて、一人一台端末を使って育成したワタの共有やMeetを活用した話し合い活動など情報共有や意見交換などの協働的な学習を積極的に取り入れることで、生徒の関心・意欲を高め、より多くのワタが収穫できるよう授業展開を工夫した。

#### 4. 成果と課題

- (1) ワタの栽培の学習では生育不良を問題点とし、原因を追究することで知識を定着させ、それらに対処していくことで技能を高めることができた。
- (2) 情報モラルの授業では、身近にある端末にある技術にはネットトラブル等を起こさないようにするための機能が多いものの、使用者の扱い次第でトラブルが起きてしまうことに気づくことができた。
- (3) 一人一台端末を活用した情報交換や意見交換などを取り入れ、授業展開の工夫をしたことで、生徒の関心・意欲が高まり、より多くのワタを収穫しようとする態度が見られた。

## 家庭分野

### 1. 千葉支部研究主題

生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、社会の変化に主体的に対応する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する力の育成を目指している。そのためには、生徒自身が自己の現在や将来を考え、生活を追求していく力を培うことが必要である。現在、社会の急激な変化や科学技術の著しい進歩に伴って、人々のライフスタイルも多様化している。このような状況の中で、多様な意見を取り入れることで、よりよい生活を目指していこうとする意識を高めていきたい。生活上の課題に対して自ら判断し、課題を解決するためにも、多様な意見に触れ、物事を多角的にとらえる力を培うことが求められている。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究の視点

研究テーマを解明するために、研究の視点を立てた。

- ①家庭分野における持続可能な社会のとらえ方
- ②話し合い活動の工夫
- ③問題解決的な学習の取組

#### (2) 研究の計画【コロナ感染拡大予防のため全て中止】

- |     |                 |   |
|-----|-----------------|---|
| 4月  | 年間計画            | (幸町第二中学校)   |
| 5月  | 実技研修            | 「持続可能な社会の構築のための取り組み」<br>～環境にやさしい手作り消臭剤～<br>都賀中学校 教諭 小島明里子 |
| 6月  | 研修会             | 「新学習指導要領の評価の在り方」<br>轟町中学校 校長 豊川ますみ                        |
| 8月  | 実技研修            | エコクラフトを使った小物入れ (リモート)                                     |
| 9月  | 研修会             | 家庭科の学習におけるタブレットの活用 (リモート)<br>轟町中学校 ICT 支援員                |
| 10月 | 指導案検討           | (新宿中学校)   |
| 11月 | 授業実践            | B 衣食住の生活「持続可能な食生活」<br>小中台中学校教諭 加藤大幹                       |
| 1月  | 今年度のまとめ・次年度への展望 |   |

### 4. 成果 (○) と課題 (●)

- 前時の学習内容を生かし、食品ロスは SDG s の取組の 1 つであり、世界の課題であることを認識させることができた。タブレットを用いて既習事項の確認をし、学びの繋がりが伺えた。
- コミュニケーション活動を通じての深い学びにつなげるという視点は、生徒同士の意見交流の中で達成された。意見を交流させる前に個人の意見をまとめさせる時間を設け、自分で考え、文章に表現する時間を確保した。その上で、相手の話を聞き、自分の意見を見直したり、相手の意見から新しい発想が生まれたりする様子が見られた。
- 個々の取り組む内容を深めるために、教師は事前に評価事項を充分把握した上で、発問や声掛け、展開をする必要がある。また、中・長期的なねらいに沿った指導計画の見直しも必要だと感じた。

## (2)市原支部 (学校数 22校 会員数 技術科 7名 家庭科 15名)

### 1 市原支部研究主題

「生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成」  
 ～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2 研究及び活動の概要

[これまでの研究の過程]

急速な社会の変化に対応するためには、自ら課題を見つけ解決できる力を身につける必要がある。人に言われたことに取り組む姿勢だけではその力をつけることはできない。必要なことを自分で判断して取り組む姿勢、いわゆる「生きる力」を育むために、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で学習指導の在り方について研究を進めている。

令和3年度に、中学校では新学習指導要領が完全実施となった。家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することや、技術の発達を主体的に支え、技術革新を牽引することができる資質・能力の育成を目指す必要がある。

技術分野においては、昨年度までは小学校での情報教育・プログラミング教育の必修化に伴い、小中連携の観点から、中学校技術科部会として小学校でのプログラミング教育のサポートをなどの活動を行ってきた。今年度からは完全実施となった中学校の学習指導要領に沿った題材や指導方法について情報交換を行っている。

家庭分野においては、持続可能な社会、未来の社会の創り手となる子ども達の育成という点からも、教科の存在意義を重要視している。現代的な諸課題を適切に解決できる能力が育成できるよう、指導内内容・方法の改善を図っている。

### 3 本年度の研究、活動内容

月	日	曜日	おもな活動内容
4	22	木	定例集会（国分寺台中学校）年間計画、組織づくり
6	14	月	定例集会（国分寺台西中学校）提案レポート検討、情報交換
6			千葉県教育研究会 技術・家庭科研究大会（紙面開催）
7	29	木	定例集会（八幡中学校）中学校技術・家庭科実技研修会
8	19	木	定例集会（国分寺台西中学校）提案発表【中止】
11	11, 12	木, 金	全国・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会（東京都） （資料参加・ライブ配信）
11	6	土	千葉県教育研究集会（千葉市）（リモート）
11	13	土	千葉県中学校創造ものづくりフェア（白子中学校・轟町中学校）
11	18	木	定例集会（国分寺台西中学校）研究のまとめ・次年度に向けて
1	29, 30	土, 日	市原市小中学校技術・家庭科作品展覧会（アネッサ）
2	19, 20	土, 日	千葉県木工工作作品展（千葉市きぼーる）



(1) 4月22日 《定例集会》

- ・本年度の研究主題及び研究計画の決定
- ・研究組織および提案者の確認

(2) 6月14日 《定例集会》

- ・令和3年度の「千葉県教育研究集会」に向けて、レポートの検討
- ・指導と評価について情報交換
- ・県作品展への出品予定の生徒作品を集約

(3) 7月29日 《実技研修会》

※感染予防防止のため、日程および大幅に縮小して最小限の内容で伝達講習を行った。

(4) 11月18日 《定例集会》

- ・今年度の活動の反省
- ・県教研の報告
- ・来年度の組織・取り組みについて
- ・技術・家庭科作品展に向けて

#### 4 成果と今後の課題

##### 【成果】

- ・新学習指導要領の完全実施に伴い、指導内容や評価について、情報交換を行うことができた。特に家庭分野では、現代的な諸課題に関わる学習について、方向性を見出すことができた。
- ・中学校技術・家庭科作品展の審査を、部会員の主要メンバーで行っている。県作品展に出品する予定作品の選考を兼ねていることから、明確な基準で優秀作品を選考できた。

##### 【今後の課題】

- ・部会の人数が年々減ってきている。免許を持っている先生への部会への参加を促したい。
- ・市中学校技術・家庭科作品展については、昨年度は一般公開できず、各学校での審査となった。今年度は、感染症対策を講じ、例年通りの実施を予定している。

### (3) 習志野支部

(学校数 7校 会員数 技術科 7名 家庭科 7名)

#### 1. 習志野支部研究主題

学びを生かし豊かな生活を創造する技術家庭科教育

～体験的な活動を通し、実践力を育成する指導を目指して～

#### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して生活と技術の関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことが目標として掲げられている。また、新学習指導要領では「家族と家庭に関する教育の充実」「食育の推進の観点から食事の役割や栄養・調理に関する内容の充実」「ものづくり教育の充実等の観点から技術の評価、エネルギー変換や生物育成の技術に関する学習の充実」といった内容の改善について示されている。

以上のことから、技術・家庭科教育では社会の変化に対応できる能力の育成が求められている。社会の急激な進歩や情報過多の中で、授業における生徒学習結果が、知識および技能の習得とともに、問題解決にあたる力をつけていくことの重要性が浮かび上がってきた。生徒が問題にぶつかったとき、自らの力でその問題を解決するためには、問題を分析し、その解決方法を考え、取り組む意欲を持つことができるかどうかにかかっている。それは、生活の様々な場面で生徒が直面する問題を解決するための学習内容の充実と工夫は不可欠であり、学習した内容を積極的に普段の生活に生かし、問題解決能力を高めていくように指導していくことが重要であると考え、この研究主題を設定した。

#### 3. 研究の概要

期 日	研 究 内 容
4月20日(火)	役員決め、計画づくり
5月18日(火)	6月研修内容検討
6月17日(木)	各校の実技等の研修
8月17日(火)	実技研修会
9月14日(火)	公開研修会準備
10月12日(火)	公開研究会協議
1月25日(火)	年間のまとめ

#### 4. 成果と課題

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、習志野市の研究が進めることができなかったが、今年度は習志野市立第四中学校が自主公開となり、市内の技術家庭科の職員が公開への協力を行い、研究を進めることができた。

### (1) 技術科編

技術科では、材料の特徴（金属の防錆（メッキ加工）と環境について）授業を通して、「予測困難な未来に必要な知識と技能を活用できる指導を目指して」、生活で使われている技術について理解を深め、問題解決能力を高める授業を実践した。

授業の感想としては

- ・本立てづくり使用している釘などは何の疑問もなく使わせている状況なので、社会的・環境的・経済的側面から考えさせるという技術の見方考え方を広げる意味でも授業として 50 分でコンパクトにまとめて、かつ実験を行うところまで深められるのは、カリキュラムマネジメントの視点からも大変価値あるものだと思います。

- ・教科横断的な内容でしたが、理科とのリレー授業や理科の先生との T.T の授業が模索できればカリキュラムマネジメントの視点からも面白いかなと思いました。電気分解の説明も理科の先生に説明動画を作ってもらえることもできるかと思います。



### (2) 家庭科編

家庭科では、「地球も人も win-win Cooking Project」を題材として授業を進めた。技術と同じく「予測困難な未来に必要な知識と技能を活用できる指導を目指して」、日々の食生活の改善(主に調理にかかわる買い物・調理・片付け)に向けてジグソー法(協同学習)を用いて学習する。最終的に自身の「Cooking Project」を立て、実践できる力を養う授業を行った。

授業の感想としては

- ・ジグソー法やパワーポイントでプレゼンテーションをする授業はとても興味深かったです。生徒が生き生きと発表する姿が印象的でした。発表を聞く生徒たちも集中してスライドに見入っている様子が窺えた。

- ・生徒の調べ学習もしっかりしていて、素晴らしかったと思います。クイズなども入っていて、聞いている生徒も関心を持ってきていたのではないのでしょうか。生徒が、自分たちで PowerPoint などを作って、タブレットを活用して、発表するには、教師側の準備も大変だったと思います。先生のご指導が、生徒の動きによく表れていました。今後、生徒たちがどのような Cooking Project を計画して実践していくのか楽しみになる授業でした。



### (3) 今後の課題

今回の授業研究は、生徒が実際に体験活動をし、実践力を養う授業でした。生徒も興味を持ち取り組む姿勢がみられた。課題としては、オンラインでの授業研究だったので、生徒を実際に見ながら、生徒の気づきやつぶやきを、どのように次の展開に広げていき、生徒の興味や問題解決能力を深めていくかが課題です。今後も新型コロナウイルスがどのようになり、オンラインでの授業も通常の授業と同じように研究を進めていくことが、今後の課題である。

## (4) 八千代支部

(学校数 11校, 会員数 技術科8名 家庭科6名)

### 1. 八千代支部研究主題

生活や社会で利用される技術の基礎的な理解と技術を身につけ、学んだことを次の学習や生活に生かすことのできる力を育む指導のあり方

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことを目標としている。これは、基礎的・基本的な知識や技術を習得するとともに、「考える力」「創造する力」「実践する力」を育み、「生きる力」を身につけさせることをねらいとしている。

これからの社会を生きる生徒にとって、実践的・体験的な学習活動を行う本教科の果たす役割は、非常に大きいと考える。習得した知識や技術、考え方を系統的な学習を取り入れること及び、一人ひとりが生活をつくる中で自由にふくらませ、創造していくことが必要と考え、本主題を設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研修の主な内容

##### ① 3 観点評価研修会

今年度より新学習指導要領が完全実施となり、観点が「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つになった。そこで、各校での評価計画等を持ち寄り共有した。特に本部会は免許外の若年層が多く、疑問に思っていることなどを専門教科の先生方へ質問し、情報交換を行った。

##### ② 実技研修

技術・家庭科部会共に、ペットボトルを用いたミニトマトの水耕栽培のキットの作成と、エコバックの作成をした。

##### ア ミニトマトの水耕栽培キット作成

ミニトマトの栽培は準備が簡易であることや仮に発芽しなかった場合の交換がきくこと等のメリットがある。その反面、ペットボトルを土台とするため倒れた時や成長したときに自重に耐えられず倒れてしまう危険性もある。

##### イ エコバック作成

エコバック作成では、1枚の手ぬぐいから使用する布を切り出し、それをミシンを使って縫い合わせ作成をした。余った布で、完成したエコバックを入れるケースを作成する部員もいた。

### ③ 八千代市作品展準備要綱検討

本年度は2月19日（土）・2月20日（日）の2日間にかけて八千代市中学校技術・家庭科作品展が、オーエンス八千代市民ギャラリーで開かれる。各校の代表の作品を一般公開する。コロナ対策も含め、要項や役割を変更し、部会内で確認・検討をした。

## 4. 成果と課題

月々の研修内容を明確にし、部員一人ひとりが意欲的に取り組んだ。特に3観点評価の研修会では、今年度より新学習指導要領が完全実施となり、部員も試行錯誤しながら行っていることから、より多くの学校の取り組みを知り各校での参考とすることができた。

今後の課題としては、専科が少なく、教科外の部員が多い中で指導要領変更に対応できるように全部員が協力し合いながら、アドバイスなどしあいながら部会や各校での授業を進めていくことにあると考える。

## (5) 船橋支部

( 学校数 27 会員数 技術科 23名 家庭科 20名 )

### 1 船橋支部研究主題

技術 : 生活や技術を工夫し創造する実践的な態度の育成 ～主体的・対話的で深い学びを通して～
家庭 : 安全・健康・快適を目指した住生活の指導法の研究 ～主体的・対話的で深い学びについて～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 技術

日本社会は、グローバルかつ急激な経済発展と技術革新で大きく変貌してきた。特に最先端技術について、持続可能な未来を見据えた地球規模で自然環境との共存を目指したもののや社会や経済に対して貢献できるものが多くあり、世界から注目されている。

しかし、いまだに消費社会が振興していて、自らものづくりをする場が減少している。また、学校での技術・家庭科についても、配当授業時数が少なく、技能の習得と深化を図ることが難しくなっている現状である。

このような社会であるからこそ、ものづくりを通して実践的・体験的経験から得るものが多い技術・家庭科の存在意義は重要である。社会の急激な変化に自ら積極的に対応し、生活に生きる力を育むためには、生涯にわたって学習の基礎となるような、知識及び技能を習得させ、さらにその能力を高め習熟させることが大切であり、そのための手だてを研究する意義は大きい。

そこで、3年間の授業を通じて基礎的な知識と技能を繰り返し学習することと、授業の工夫を行うことで、ものづくりに関する能力を定着させるとともに、しっかり作られたものを長く使用することで自然環境の保全を実践し、社会・経済への貢献する態度の育成を図っていく。

また、実習等の結果を整理し考察することや、設計図や回路図といった図表及びものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりすることなど、言語を通じた学習活動を充実することにより「思考力・判断力・表現力等」の育成を図っていく。

#### (2) 家庭

今日、ほとんどのものが既製品化され、生徒の生活も家事労働の社会化や機械化にとともに、家庭における体験が乏しくなっている。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる時代となった。家庭科の学習は生徒の関心や有用感が高い一方、家庭生活の一員として協力することへの関心が低く、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。その中で、自分らしく、かつ便利に、合理的に生活していくためにも、技術・家庭科の授業が重要になっている。

また、GIGA スクール構想が開始されるなか、千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会に向けて、衣食住の内容について、ICTを活用することで、主体的・対話的な学びに繋げるとともに、それらに係る技能を身につけさせることを目指す。加えて、生徒が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活の中から見いだした課題を解決する力、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度を育成することを目指し、本研究主

題を設定した。

### 3 研究の概要

研究内容 (各月 上段：技術 下段：家庭)

月	日	研究種別	研究内容	会場
5	19	総会	役員選出・研究主題・年間計画の検討	高根台中学校
6	16	全体研修 全体研修	双方向性のあるコンテンツのプログラム Chrome book の活用法について	二宮中学校 船橋市総合教育センター
7	7	授業研究 全体研修	栗山達也教諭「情報に関する技術(3年)」 評価方法検討、R4 県研究発表会に向けた班別研修	高根台中学校 船橋市総合教育センター
9	22	全体研修	船橋市教育研究大会	各学校オンライン
10	27	全体研修 全体研修	R4 県研究発表会に向けた班別研修 R4 県研究発表会に向けた班別研修	海神中学校 船橋市総合教育センター
11	17	全体研修 全体研修	R4 県研究発表会に向けた班別研修 R4 県研究発表会に向けた班別研修	海神中学校 船橋市総合教育センター
1	12	授業研究 授業検討	石井歩野花教諭「エネルギー変換に関する技術(2年)」 本宮裕子教諭「住まいのはたらきとここちよさ」	高根台中学校 海神中学校
2	2	全体研修 全体研修	研究のまとめ・次年度の方向性 研究のまとめ・次年度の方向性	海神中学校 船橋市総合教育センター

### 4 成果と課題

#### (1) 技術

##### ①成果

- ・双方向性のあるコンテンツのプログラムに関する研修と授業研究を行うことができた。授業研究では、電子黒板と1人1台端末を活用した授業の進め方やグループでの教え合い活動など、今後の参考となる点が多かった。
- ・新学習指導要領の実施に伴い、評価方法や年間指導計画、指導案の形式などを見直し、検討することができた。

##### ②課題

- ・動画視聴による授業研究を行ったが、情報の授業では生徒の活動(画面)が見えないため、撮影方法に改善が必要である。
- ・「双方向性のあるコンテンツのプログラム」では、評価方法の検討が今後の課題である。

#### (2) 家庭

##### ①成果

- ・関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会を始め、千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会に向けて、各学校で取り組みを始めることができた。
- ・1人1台端末 Chrome book の活用や3観点の評価等が開始され、各学校での取り組みや評価方法を共有する研修を実施することで、各学校の実践に繋げることができた。

##### ②課題

- ・Chrome book の活用法については、学校毎で活用頻度に差が生まれているため、家庭科部会の中で使用法の研究を深めていく必要がある。

## (6) 市川支部

(学校数 16校 会員数 技術科 11名 家庭科 18名)

### 1. 研究主題

生活や技術を工夫し創造する思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の在り方  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 2. 主題設定の理由

市川市では以下の視点を重視した授業改善について3つの目標が掲げられている。

- ①生徒自身が見通しをもって自らの学習を振り返り次につなげる「主体的な学び」の実現
- ②他者との関わりの中で、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」の実現
- ③学習の過程の中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の実現

これらをふまえ、生徒が主体的に問題解決を図り、仲間の力を借りながら、あるいは互いに協働しながら、思考力・判断力・表現力を高め、深い学びを経験していくことが、今後、技術革新の進んだ社会で生き抜く力を身につけていくための大切な一歩と考える。

### 3. 研究の概要

#### (1) 技術科分野

月	日	研究種別	研究内容
6	9	定例研	年間計画の作成と検討、部会組織決定 教科書出版会社による新指導要領に対応した教科書の紹介
11	17	定例研	双方向性のあるコンテンツのプログラミング教材について 情報交換
2	9	定例研	電気・金属加工の教材研究・情報交換 1年間のまとめ

#### 6月（教科書出版会社による新指導要領に対応した教科書の紹介）

教科書出版会社の方に来ていただき、新指導要領とそれに対応した教科書についてお話を伺った。「技術の見方・考え方」を重視した改訂が行われ、全分野を通して、「技術の見方・考え方」を意識できるような作りになっている。

また、デジタルコンテンツの拡充は生徒の関心を高めことにも役に立つが、技術科は専門外の教員が授業を担当する場合も多くあるため、そのような場面や感染症対策や時間数の圧迫による実習不足を補うなど、様々な場面で活用できるように作られていることが分かった。今回、担当者の方に直接紹介していただくことで、教科書の活用の幅が広がった。



#### 11月（双方向のあるコンテンツのプログラミング教材について情報交換）

新指導要領で大きく変化したことのひとつが双方向のあるコンテンツのプログラミングである。各校で実際に行なっている教材を情報共有し、一部の教材については実際に操作を行い体験することで理解を深めることができた。

小学校でのプログラミング必修化も踏まえた教材選びについても話題に上がった。



## (2) 家庭科分野

月	日	研究種別	研究内容
6	9	定例研	年間計画の作成と検討、部会組織決定 教科書出版会社による新指導要領に対応した教科書の紹介
11	18	定例研	五市合同作品展について 授業研の報告・反省
2	10	定例研	新しい評価の仕方の検討 研究のまとめ、次年度の方向性の検討

今年度も、感染防止の関係で定例研の回数が少なかった。そのなかで、各学校の授業研の報告や反省などを共有し、今後の授業に生かせるようにした。

今年度の授業研究では保育分野で行った先生が多かった。授業研究の内容としては、①絵本を使用した授業を展開した。絵本を使用し、色合いやひらがなが多いなどの特徴を理解し、牛乳パックで作る幼児のおもちゃ作りにつなげた。生徒は懐かしい本もあり、楽しんでいた様子であった。

②コロナウイルスの影響で近年行うことができていない保育交流だが、長年続いている保育園との交流に向けて小さい絵本（紙ベース）の制作を行った。授業は学校司書の協力を仰ぎ、絵本を集めてもらった。また、学年内の子育て中の先生から意見をいただき、最近の人気の絵本をピックアップしてもらい紹介した。

③遊びについての授業。実際にブロックやパズルを購入し、生徒に遊ばせた。そこから遊ぶことによってどんな力がつくのか考えさせ、プレゼンテーションを行った。

④パペットづくり（フリース生地）を行い、パペットを使ってどういう遊びができるか考えさせた。ほかの分野での授業研究もしていたが消費生活の分野が少ないため次年度以降力を入れていきたいと考える。

保育分野以外は衣生活分野でエコバックの製作の授業を展開した。被服室にパーティーを準備してもらい、授業ができる環境にしてもらった。ICTの活用をもっとしていきたいと話していた。また、住生活分野では災害に備えた家づくりの授業を展開した。

反省点は製図を行ったが1マス1mにしてしまったために豪邸になってしまった。消費生活分野ではロールプレイングを用いた授業を展開した。セールスの断り方の言葉を考え班ごとにロールプレイングを行った。早く終わった班はセールスマンの言葉も考えさせることができた。

## 4、成果と課題

### (1) 技術科分野

今年度も定例研の回数自体は減ってしまったが、外部の講師を呼んでの研修を行うことが出来た。実際に授業で使う教科書についてお話を伺うことができ、日々の授業実践に役立った。新しい生活や新指導要領に対応した授業の形、評価方法について、今後も洗練されたものとなるよう教員間の情報交換や外部の方に指導していただく機会を継続して持てるようにしていきたい。

### (2) 家庭科分野

今年度も感染症予防のため定例研が少ない回数となってしまったが、その中でも他校の授業の様子を伺うことができ、新しい評価の仕方とともに新学習指導要領の内容を理解し、日々の授業を見直す良い機会となった。今年度も残りわずかであるが、新しい評価の仕方を部会で話し合い、教員間で差ができぬよう情報共有を行っていきたい。

## (7) 浦安支部

(学校数 8 会員数 15 技術分野 8名 家庭分野 7名)

### 1. 浦安支部研究主題

技術分野：生活の中で課題を見出し、自ら進んで工夫し、創造する生徒の育成 家庭分野：学習指導要領に即した教材の工夫
---

### 2. 主題設定の理由

本市は学習指導要領の目標のうち、特に以下の3つ目標において研究を進めてきた。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関する技能を身につけるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

新学習指導要領では、3観点となり適切な評価や充実した授業実践のための教材研究を行う。それぞれの課題が明確になってきたため、評価を含めての教材研究を行う。さらに、今年度は若年層教員研修等の研修が行われなかったため、部会研修の中で実技研修を設けたい。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究計画

回	月日	場所	内容
1	5/12	日の出中学校	研修計画作成
2	6/16	富岡中	研修計画作成 学習評価について
3	9/15	技術分野：美浜中学校 家庭分野：入船中学校	教材研究
4	10/13	技術分野：美浜中学校 家庭分野：入船中学校	教材研究
5	11/17	技術分野：美浜中学校 家庭分野：入船中学校	教材研究・年間のまとめ・紀要原稿作成
6	2/2	富岡中学校	教育講演会

## (2) 研究内容

### ① 技術分野

学習指導要領「A 材料と加工の技術」に関する製作することとした。アルコールポンプスタンドの製作を通して、生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身につけさせるにはどのように指導するべきか情報交換を行った。また、新学習指導要領が実施となったことで、学習評価が4観点から3観点に変更となった。特に、「主体的に学びに取り組む態度」について、各校でどのような取り組みをしているのか、以前とどのような違いがあるのか情報交換し、これからの授業実践に向けて協議した。

### ② 家庭分野

学習指導要領の「B 衣食住の生活」の教材と教材選定についての情報交換を行った。学習内容を効果的に活用できる授業について共有し、「エコな住まい方すごろく」の検証を行い、消費生活や環境に関する学習内容や授業の進め方を協議した。

## 4. 成果と課題

### (1) 技術分野

技術分野においては、「A 材料と加工の技術」において、教材を通して新学習指導要領の生活と技術についての基礎的な知識と、それらに関わる技能を生徒に身につけさせるための指導方法を確認することができた。また、今回の製作では、若年層教員の実技研修を兼ねて、丸のこ昇降盤など大型機械を使用した。このような教員自身の技能を向上させる時間が必要だと考える。

学習評価についても、各校の取り組みや授業実践を共有することで、技術科としての評価基準を見直すことができ、浦安市部全体で新学習指導要領への理解を深めることができた。このような部会研修のみならず、日頃から学校間で実践報告や、指導案等を共有し、各教員の能力を向上させることが今後の課題である。

### (2) 家庭分野

「B 衣食住の生活」の教材を各校で実践できるように、「エコな住まい方すごろく」の検証をした中で、学習内容を効果的に活用できそうな教材について共有できた。今後、各校でよりよい授業展開を考え実践し、深めていく必要がある。また、授業での活用方法を教員同士で確認することで、指導上の留意点を知ることができ、とても有用な時間となった。課題としては、「B 衣食住の生活」の教材を意欲的に活用する場を設定して、学習指導要領の評価・評定について検討を行っていくこととする。

## (8) 東葛飾支会 技術・家庭科部会 (学校数72校)

### 1. 研究テーマ

ICTを活用した「個」に応じた学びの実践

### 2. 研究テーマ等について

東葛飾地区は千葉県北西部に位置し、我孫子、柏、鎌ヶ谷、流山、野田、松戸の6市で構成されており、人口は約152万人で千葉県の総人口の24.2%を占めており、県内でも都市化が進展している地域である。また、東葛飾地区内には小学校が146校、中学校が72校あり、各市が独自の研究・実践を行っている。特に、昨年度から続くコロナ禍によって授業に新たな制約が生まれ、各学校では対応に苦慮している。また、各市でGIGAスクール構想によってもたらされた一人一台端末を活用した授業実践を行った。

### 3. 研究概要

流山市では、GIGAスクール構想により生徒一人一台のタブレットが貸与され、教科書内に記載されているQRコードを読み込むことで、工具の使用法の動画が見るなど生徒の情報活用の場面が増加した。実習では、全体指導で実演を交えながら基本的な工具の使用法について教え、復習などの補助的な役割で活用した。また製作がうまくいかない場合は、生徒の作業の様子を撮影し、教科書の動画と比較させ、違いを考えさせた。ポイントがつかめない場合、姿勢や工具の動かし方の視点を教え、動画と一緒に確認しながら個別指導を行った。切断でタブレットの活用について指導を行ったことで後の作業でも、活用している生徒が見られた。鎌ヶ谷市ではchrome bookを教員が授業に積極的に活用し、googleスライドでコマ撮りした画像をアニメーションでしたり、インターネット検索で調べ学習をしたりするなど学校の中で使う場面が多くなってきている。同じ筐体が導入されている野田市においても、生徒が長期休暇で自宅に持ち帰ってeライブラリで家庭学習に取り組んだり、google フォームを使って、小テストやアンケート

を行い、授業中で結果を集約・提示したりするなど学習環境に大きな変化が現れている。他市でもリモート授業を行い、感染症対策や不登校支援において生徒の学びを支えることができた。



図1 自宅でリモート授業を受ける生徒の様子



図2 みんなのコード「プログル技術」

プログラミング教育でも各市で様々な実践が行われている。レゴマインドストームや toio に加え、スクラッチやプログル技術などのロボット筐体に依存しない教材の実践も数多く行われている。

#### 4. 成果・課題と今後の展望

東葛飾管内では不登校の生徒が増加しており、学校に来ることができない生徒に対してどのように技術・家庭科の学びを提供するかが問題とされてきた。そんな中で、アカウントを作成すれば、自宅でも技術・家庭科の授業を受け、実践的・体験的な活動を行うことができるようになってきたことは、大きな成果だといえる。しかし、授業の中で他者と双方向のやり取りを行うことが十分にできていない。ドリル形式で個人の習熟度に対応することができても、自ら問題を発見し、課題を解決するために思考することができていないのだ。また、ICTを生徒が活用する中で端末に対する知識・技能が不足していることも大きな課題になっている。

今年度予定されていた実技研修会も中止となり、技術・家庭科教員同士がお互いの実践や課題について情報や意見を報告しあう機会がないことは大きな痛手ではあるが、不登校やリモート授業など、多様化する教育的ニーズに対し、教員一人一人が真摯に向き合っていくことが生徒たちの学びをより豊かなものにしていくために欠かせないことである。各市での研修に加え、日々の教材研究のさらなる発展にこれからも期待したい。

## (9) 印旛支部

(学校数 小学校104 中学校49 会員数 小家庭34 技術科32 家庭科37)

### 1 印旛支部研究主題

確かな知識と技能を身に付け、社会の変化に対応し、  
生活や技術を工夫し、創造する力を育む学習指導のあり方

### 2 主題設定の理由

現代の子どもたちを取りまく生活環境は科学技術の進歩とともに大変便利なものになってきている。しかしながら、子どもたちはものをつくり、活用する生活体験が少なくなり、生活に係る知識及び技能などが徐々にではあるが劣ってきている。

新学習指導要領において、小学校では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを重視している。また中学校では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを重視している。

それらを踏まえ、授業を通して子どもたちに身近な生活や技術に目を向けさせ、興味・関心を高めることにより、自ら学ぶ意欲が喚起され、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだすことができる。そして、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせ、問題解決的な学習を充実させることにより、生活や技術に係る基礎的な知識と技能の習得が図られ、自分の適性にあった創意工夫が生まれるものと考えられる。そのことにより児童・生徒一人一人における家庭生活や社会生活が充実し、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を図ることができるであろうと考え、本主題を設定した。

### 3 研究の概要

#### (1) 行事

##### ①定期総会 5月6日(木)

書面による議決。昨年度の報告、今年度の研究主題、研究内容、行事予定等を確認。

##### ②中学校技術・家庭科実技研修会 7月27日(火)・28日(水)

佐倉市立佐倉中学校で実施。感染症拡大防止対策として各分野担当者を2分割し、2日間に分けて県伝達講習を行った。

##### ③小学校家庭科実技研修会 8月4日(水)

成田市立本城小学校で実施。県伝達講習を行った。

##### ④印旛地区教育研究集会 8月25日(水)

書面による研究提案を実施。提案資料はWeb上に掲載。閲覧者はWeb上の共有ファイルに多数同時接続し、提案に対する質問や意見、閲覧者相互の意見交換を行った。

##### ⑤関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会(東京大会) 11月12日(金)

資料参加

##### ⑥第17回千葉県中学生創造ものづくり教育フェア 11月13日(土)

印旛地区から1校がロボコンに参加

##### ⑦第61回印旛地区小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展 11月26日(金)

規模を縮小して開催、一般公開は行わずに審査のみ実施。例年出品総数が500を超えるところを今年度は出品総数160点に絞り込んで審査。(小学校70点、中学校各分野45点ずつ)

※各小中学校からは例年と同程度の作品数を出品、まず印旛支部内1～5部会の各部会において審査にかけ、特に優れたものを支部作品展へ出品した。

[第61回 印旛地区小学校、中学校技術・家庭科作品展の様子]



(2) 研究について

昨年度は感染症拡大防止のため実施できなかった印旛地区教育研究集会。今年度もかつてのように一堂に会しての開催とはならなかったものの、書面による提案とWeb上の協議によって代替とした。

①技術分野

今年度は第5部会（四街道市）による「【C：エネルギー変換の技術】生徒が協力し合いながら正しく作業を進める指導～ICT 機器とヒントカードを取り入れた指導を通して～」の提案と、四街道市各校の授業実践報告、他市の「双方向性プログラミングによる問題解決」の授業実践が報告された。生徒にとって高いハードルとなる工程において、主体的で対話的に学びを深めていけるようにするための手立てを研究・実践した提案であった。

②家庭分野

小学校による「子ども達の主体的な学びを促すための学習指導の工夫～給食を題材にした献立作りと栄養教諭との連携を通して～」と、「技術・家庭科における日本の生活文化や伝統の大切さに気付かせる学習指導の工夫」の2本が提案された。小学校の提案内容は、「だれ一人取り残さない」という令和の日本型学校教育の要点に合致し、人材の活用による学習意欲の喚起と学びの深化を計るべく研究・実践報告であった。中学校の提案では、日本の生活文化の価値を捉え直し、生徒が学ぶ機会を研究によって位置付け、また全題材に関連させて気付かせ、深めさせる実践報告であった。

4 成果と課題

今年度は、各小中学校において児童・生徒が熱意を込めて製作した作品を例年に近い形で審査し、賞を授与することを通して指導法研修を継続することができた。特に部会毎の作品審査は、例年以上に詳細な審査基準を検討した上での実施で、研究部員全員が題材への理解をより深めるよい研修の機会となった。今後は学習指導要領に則した授業実践の情報を共有・協議する場を集会、あるいはオンラインにより設定し、題材や評価についてより深めていくことが肝要であると考えられる。

## (10) 香取支部

(学校数 中学校 10校 技術科 8名 家庭科 3名 小学校 22校)

### 1. 香取支部研究主題

自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究

(1) 中学校 学習指導要領の研究、教材研究、研究実践の積み上げ

(2) 小学校 学習指導要領の研究、研究実践の積み上げ

### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科の目標は「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。」である。

香取支部の生徒や地域の実態として、次の点が挙げられる。

① 農村地域でありながら、生活体験の不足、ものづくり体験が不足している。

② 祖父母の農業従事者は多い。父母世代は、地元及び近隣の鹿嶋・成田方面へ勤務している者が多い。

また、香取支部は平成22年度県研究大会時の研究主題「確かな知識と技術を身に付け、自ら課題を解決していく力を育む学習指導のあり方」を継続して研究を行ってきた。これらから本主題「自ら課題をもち、実践活動を通して解決する力を育む学習過程の研究」を設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究の仮説

学習活動の中に意図的に問題解決的な学習を取り入れ、繰り返し行っていくことで、児童生徒の「問題発見能力」「問題解決能力」が高まるであろう。

#### (2) 研究方法

これまでの研究を継続するが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、可能なものを実施していく。

① 各学校で日常の授業の充実に努める。

② 公開授業に積極的に参加し、その内容を支部内に伝達する。

③ 校内研究会などの機会に、授業を公開するとともに研究協議を充実させる。

④ 研究レポート等の提案発表を行い、課題解決のための協議を行う。

⑤ 実技研修会において、自らの技能向上を図る。

⑥ 作品展の際、作品を通して授業実践の情報交換を行う。

#### (3) 研究実践

① 各学校での授業実践に、課題を認識して取り組むことが出来た。



- ② 校内研究会は、各校で取り組むことが出来た。（しかし、感染予防のため授業公開は出来なかった。）
- ③ 教育研究協議会が、参集型での実施が出来ず、書面での研究発表となった。  
小学校家庭科より「製作に親しみ、主体的に取り組む児童の育成ーコロナ禍における場の工夫を通してー」、中学校の家庭分野から「自ら課題をもち、生活に生かす力を育む学習指導ーSDGsの学習を通して、衣生活のリサイクルについて考えるー」の2本の提案があった。新型コロナウイルス感染症を考慮した学習活動や、本教科で取り組んでいく必要がある「SDGs（持続可能な開発目標）」の学習について提案があり、各校の実践にとっても参考になった。
- ④ 作品展では、優秀作品を選考するとともに、工夫した作品・新しい題材等を検討する機会となった。

#### 4. 成果と課題

##### (1) 成果

- ① 作品展として展示は出来なかったが、中学校の優秀作品の選考を通して、新しい題材のヒントや、各学習での基礎的・基本的な技能の確認が出来た。審査を通して、研修のよい機会となった。
- ② 研究部員は少なく会議等の機会も減ってしまったが、研修会の折りには、日頃の疑問点や聞きたいことを気軽に聞くことが出来た。

##### (2) 課題

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実技研修会ができなかった。また、各校に常勤の授業担当者が少なく、講師が担当している学校がさらに増えており、研修会等に参加できずに情報交換等も出来ていない学校がある。
- ② 児童生徒の減少に伴い、小・中学校の統合が進められている。今後、中学校8校、小学校20校ほどになる。このため、香取支部として、研究・研修内容、作品展等の行事での運営面の改善を迫られている。

#### ※ 香取支部としての本年度の行事

- 4月16日 研究部総会 行事、決算・予算、役員改選
- 5月19日 役員研修会 令和3年度の行事運営の詳細確認  
県作品展の出品作品の審査
- 8月 3日 小学校家庭科実技研修会 → 中止
- 8月 4日 中学校技術・家庭科実技研修会 → 中止
- 8月 5日 技術・家庭科実技研修会 → 中止
- 8月19日 研究協議会 小学校家庭科・中学校家庭分野の提案及び協議  
→ 書面開催
- 1月26日 役員研修会（作品審査・来年度の活動を検討）  
→中止 2月2日の研修内容に含める
- 1月27日～2月2日 小学校家庭科、中学校技術・家庭科作品展  
→作品展示の中止 作品審査は2月2日に実施
- 2月 2日 役員研修会（作品展反省・来年度の活動の見通し）

## (1 1) 東総支部

(学校数 15校 会員数 技術科 11名 家庭科 12名)

### 1. 東総支部研究主題

生活や技術を工夫し創造する思考力・判断力・表現力を育成する学習指導  
～技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせた主体的な深い学びを通して～

### 2. 主題設定の理由

#### 【技術分野】

技術の見方・考え方を働かせた主体的な深い学びを重点におき、「より丈夫に」「より便利に」「より安全に」「より安価に」「より環境にやさしく」といった様々な角度から物事を比較・検討することにより思考力が広がり正しい知識や主体的な深い学びを育むことができると考えられる。

#### 【家庭分野】

これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする資質と能力を育てることが求められている。そのため、将来自立した生活を営む見通しをもち、身近な生活に目を向けた活動の中で基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを家庭生活に生かすことができる生徒の育成が必要であると考えられる。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究の仮説

##### 【技術分野】

技術の見方・考え方を働かせ比較・検討し、最適化する活動を取り入れることにより、正しい知識を得て、よりよい生活の実現に向け、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度や問題解決能力を育成することができるであろう。

##### 【家庭分野】

地域の食材や人材の活用を通じた指導方法の工夫や授業改善を行うことにより、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、生活の自立を目指していこうとする意欲や態度が高まるであろう。また、小中高校の連携を図り、教科等横断的な視点から学習の積み重ねや学びの繰り返しを効果的に行えば、学んだことを実生活に活用し、主体的な生活を営むことができるであろう。

#### (2) 研究内容

##### 【技術分野】

##### ①比較・検討の場面から見方・考え方を働かせる授業実践

知識を相互に関連付けてより深く理解し、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」につなげることのできる学習内容を選び、東総支部各校で授業実践を行った。

##### ②事前・事後アンケートの実施

各校で授業実践をおこなう事前と事後で生徒の変容をみるためのアンケートを実施し考慮した。

## 【家庭分野】

### ①小中連携のための資料内容の検討と作成

小中学校それぞれの食物学習の中で、環境に関わる項目を選定し、アンケート調査を行った。また、調査結果についてはチェック表の作成に反映させた。

### ②中学校と高等学校の連携

校内行事等で地元の農業高校と交流したことを機会に、高校生がゲストティーチャーとなり、出前授業を依頼した。地域食材の紹介やその生産について、調理法等、幅広く指導を受け、学習した内容について成果と課題を話し合った。

### ③地域人材の活用

地域食材の生産者から、生産方法や生産に伴う工夫、苦労等を話していただき、映像にまとめて授業に活用した。また、食材の調理法や注意点等についても教えていただき、調理実習に生かした。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

#### 【技術分野】

色々な場面で、見方・考え方を働かせ比較・検討する活動を取り入れることにより、主体的で深い学びの実現を目指す授業を展開することができた。その中で「ものを比較することは、自分の見方・考え方を深めるのに役立った」という事前・事後アンケートの大幅な変容があり、個人の固定化された偏ったまま理解されていた考えも、比較・検討することで思考の変容や自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

#### 【家庭分野】

生産者・農業高校・栄養教諭と、地域の人材をより多く活用した授業を行うことができ、知識や技能の習得や生活の自立に向けた意欲が高められた。教員とは立場の異なる身近な方の話には、共感や受容度が高い傾向にあることが感じ取れた。今後の授業改善へ向けた大きな成果であると思われる。

### (2) 課題

#### 【技術分野】

コロナ禍の中で対話的な学習の場面設定が困難であり、数少ない場面での協働や対話の中から考えを広げることはできたが、生徒一人ひとりがそれぞれの問題を見出し解決を図る主体的な学習について不十分であった。今後は、困難な環境下でも効果的で対話的場面をどのように工夫・設定していくとよいか引き続き検討が必要である。

#### 【家庭分野】

今回、地域人材や小中高連携など大きな成果があったが、コロナ禍ということ考えると、ICTを活用した授業において、今後一人一台のタブレットを活用できるようになればまたやり方が変わってくると思われる。授業を進める教員が、ICT機器の操作ばかりになってしまわないよう、進め方を工夫する必要がある。支援員等、さらなる人材活用も視野に入れていくことも考えられる。

## (12) 山武支部

(学校数51 会員数 技術科14名 家庭科 14名)

### 1. 山武支部教育研究主題

人との関わりをとおした学びから、豊かな生活を創造する態度を 育成する技術・家庭科教育の在り方
---

### 2. 主題設定の理由

令和3年度から新学習指導要領が完全実施となった。小学校家庭科、中学校技術・家庭科においては、実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術や生活を工夫し創造しようとする態度の育成を目指す必要がある。

「技術分野」では持続可能な社会の構築やものづくりを支える能力の育成、また技術を適切に評価し活用できる能力の重視など、社会の変化に対応する視点からの改善が必要である。一方、「家庭分野」では、少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないことへの対応や食育の推進など、社会の変化に対応した学習を行わなければならない。

しかし、現状を見てみると、「授業で学習したことを生活や社会の中で、確実に活かしているか定かではない」ようである。授業で学んだことを活かすため、思考力・判断力・表現力を育むような授業のあり方について研究を進めていく必要がある。言語活動を重視し、生徒同士の主体的な学び、対話的な学びが実施されるよう工夫する必要がある。また、確かな「教え」とおして、基礎的・基本的な知識と適切な技能の定着を図るとともに、課題を見だし解決を図る問題解決的な学習のあり方について研究を進めていくことが重要であると考え、本研究テーマを設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 研究内容

- ・言語能力の育成を取り入れた授業研究を進める。
- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、題材の開発や授業の工夫改善、評価方法と評価の判断基準の見直しをする。

#### (2) 運営方針

- ・研究活動及びその他の部会事業をとおして、会員の力量の向上を図る。
- ・年間の諸活動における会員の要望を集約し、次年度の運営方針案に反映させる。

#### (3) 年間計画

- ・ 5月 6日(木) 山武教育研究総会 (Web 会議システム)
- ・ 6月 6日(木) 第1回同一研修会 (web 会議システム)
- ・ 8月 4日(水) 実技伝達講習会 (東金中学校) ※中止
- ・ 8月 18日(水) 教育研究集会 (各会場)
- ・ 11月 11日(木) 第2回同一研修会 (各会場)
- ・ 1月 14日(金) 小中学校技術・家庭科主任会 (東金中学校)
- ・ 2月 4～6日(金～日) 山武郡市小中学校技術・家庭科作品展 (東金サンピア)

#### (4) 実践の概要

##### ①小学校部会

ア **第1回同一研修会** 小学校家庭科、中学校技術・家庭科との共同開催で、株式会社「イソペット」の出前授業を行っていただいた (Web 会議システム)。ワークを使い、身近な社会問題を提示して、生物育成の技術が、問題の解決にどう役立っているのか考えられる内容であった。ワークや教材、収穫した作物の家庭分野での活用例なども提示してもらった

ので、授業実践に役立てたい。

- イ **実技研修会** 県の中央研修に片岡千恵子先生（松尾小学校）が参加した。新型コロナウイルスの感染症対策をしながらできる調理実習の例としてスポンジを食材に見立てて、擬似調理実習する方法の資料が配付され、実践的な内容となった。
- ウ **教研集会** 小学校家庭科，中学校家庭分野で共同実施した。講師は東上総教育事務所夷隅分室指導主事 時津丈二先生。新型コロナウイルスの感染症対策をしながら、調理実習をどのようにするか話し合いがもたれた。スポンジを材料に見立てて、擬似調理実習をする方法等を中心に、コロナ禍での授業実践の例を研修することができた。
- エ **第2回同一研修会** 小学校家庭科，中学校家庭分野で共同実施した。矢部由香里先生（白里中学校）による、「消費者教育」の模擬授業の展開を行った。授業では「商品購入に必要な情報を集めよう」のテーマのもと、オレンジジュースのラベルの工夫、広告にどんなことが書かれているか等、適切な消費者の判断や知識を話し合い、有意義な研修になった。

## ②中学校技術・家庭科部会（技術分野）

- ア **第1回同一研修会** ※小学校部会と合同実施のため，記載省略。
- イ **実技伝達講習会** 伊藤崇教諭（東金東中）・峰太郎教諭（東金中）が県の中央研修に参加した。しかし感染症拡大防止のため、伝達研修は中止。自主研修として「引き出しボックス」を製作した。杉板とアクリル板、ベニヤを使って、工作機械、手工具を使いながら完成させることができた。同じ寸法でサイズの異なる作品を製作できる可能性が感じられた。
- ウ **教研集会** 松井康朗（東金北中）のレポートを元に、二十日大根の栽培学習を通して肥料への理解を深める授業の方法が協議された。校内環境や生徒の実態に応じて、よりいっそう意欲的な栽培授業を行うにはどうすれば良いかなど、様々な視点から議論を深めた。
- エ **第2回同一研修会** 宇佐美晶良教諭（横芝中学校）による、「エネルギー変換」の導入の模擬授業を行った。「エネルギー変換」という生徒にとって初めて触れる概念を理解させるために、スピーカ、紙コップ、アンプ、ソーラーパネル使用して興味関心を引き出す授業展開になった。

## ③中学校技術・家庭科部会（家庭分野）

- ア **第1回同一研修会** ※小学校部会と合同実施のため，記載省略。
- 第2回同一研修会** ※小学校部会と合同実施のため，記載省略。
- イ **実技伝達講習会** 内山潤子教諭（東金中）・矢部由香里教諭（白里中）が県の中央研修に参加した。感染症拡大防止のため、伝達講習は中止。研修で使用予定であった「男女共同参画」「家族と家庭生活」「保育」領域の資料を配付し、自主研修となった。

## 4. 成果と課題

### (1) 研究の成果

授業者や研修を担当された先生方のご尽力により、参加者にとって、新たな知識や指導法，実践してみたい工夫などが多く伝えられ，どの研修会も有意義なものであった。

### (2) 今後の課題

本教科の特性を生かし，生活を工夫し，創造する資質・能力を高める授業や研修の工夫をさらに進めていかなければならない。また，本支部においては，経験の少ない教諭が増えていることから，指導するための知識や手法，技能を共有することや評価方法などを協議する場を増やす必要がある。

### (13) 長生支部

(学校数 中8校 小12校 会員数36名 中技術8名 中家庭11名 小家庭 17名)

#### 1. 長生支部研究主題

生活や社会の中から問題を見だし、  
自ら解決策を構想し実践する力を育成する学習指導のあり方  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

#### 2. 主題設定の理由

技術・家庭科の学習では、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成すること」を目指している。

そこで本支部では、未来の社会を牽引する子どもたちが、技術・家庭科の学習により、よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる資質・能力を育成するという最終的な目標に着眼し、技術・家庭科の「見方・考え方」を十分に働かせて、各学習過程において設定した自らの学習問題についての最適解を見出す学習経験を通じて、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付けるという生きる力・実践する力を育てたいと考え、本主題を設定した。

#### 3. 研究の概要

##### (1) 研究計画（事業計画）

期 日	事 業 名	内 容
4月21日(水)	技術・家庭科研修会	活動計画立案
4月28日(水)	長生教育研究集会	事業報告、活動計画 <b>書面表決</b>
6月23日(水)	技術・家庭科教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の検討
7月30日(金)	小学校家庭科研修会	実技研修
8月 4日(水)	技術・家庭科教材開発研修会	教育研究集会の提案内容の検討 今後の研究活動方針 <b>中止</b>
8月 6日(金)	中学校技術・家庭科研修会	実技研修 <b>中止</b>
8月23日(月)	長生教育研究会	研究レポートの発表 <b>リモート実施</b>
11月26日(金)	技術・家庭科研修会 役員研修会	作品展計画立案、今後の研究活動方針 令和5年度県総会について
12月21日(火)	臨時技術・家庭科教材開発研修会	令和5年度県総会について
1月28日(金)	技術・家庭科作品展作品搬入	作品展会場づくり、作品の搬入 <b>変更</b>
2月10日(木)	技術・家庭科作品展作品搬出	作品の搬出、会場復旧 <b>変更</b>
2月25日(金)	技術・家庭科研修会	今年度の反省と次年度の計画

## (2) 研究内容

### ① 長生教育研究集会（8月23日 リモートによる実施）

【提案者 茂原市立茂原中学校 教諭 阿部 豊】

研究テーマ 製図の学習における3次元CADを活用した学習指導の工夫

成果 ・紙による製図よりも容易に設計することができた。

・他者に情報を共有することが容易になった。

・製図が苦手意識をもつ生徒も作図できるようになった。

### ② 支部では、次の2点について今後研究を進めていく。令和5年度に県総会を会場地区として取り組むためである。

ア 各学習過程において生徒が自らの学びを可視化し、自分の学習における変容を見取ることができるような仕組みをつくり、自ら解決策を構想する力を育成する。

思考力の変容を自ら可視化できることは、「できた・わかった」が実感できることであり、更なる学びの最適解を導くための構想する力を生む原動力になるはずである。そこで、本支部ではワンページポートフォリオの活用を試みることにした。

イ 「見方・考え方」という教科の特性を捉えた学習指導の工夫・手立てを講じ、実践する力を育成する。

技術・家庭科の「見方・考え方」、学習指導要領における学習のねらいや身につけたい力、そのための題材等について取り上げ、学習指導の工夫・手立て（授業の実態）や長生地区の生徒の実態を把握するための調査を積み重ね、指導に活かすこととした。

各学校で取り組んでいる「見方・考え方」という教科の特性を捉えた学習指導の工

### ③ コロナ禍における技術・家庭科教育について、今後も状況を見て推進していく。

本地区では例年、1会場（茂原市美術館）で、地区の教育研究会の3部会が合同で作品展を実施している。今年度は3部会での検討会において合同の作品展は中止となった。

技術・家庭科部会は、各小中学校で作品展を実施し、学習の成果として、技術的に優れた作品を表彰し、児童生徒の主体的学びを確保するために実施することとした。本年度に限り昨年度出品予定だった作品も出展できることにしている。

## 4. 成果と課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部を書面表決で実施する等、コロナ禍であることを考慮し必要最小限の実施となった。

地区作品展は、例年1会場で書道、造形、技術・家庭の3部会合同で実施しているが、今年度は会場を各学校で実施し、児童生徒の主体的な学びを確保した。

令和5年度の県総会に向けて、支部の研究方針及び研究組織が決定され、取り組む体制が整ってきた。

学校にあるPCのリース契約に関する入れ替えが行われ、内容D「情報の技術」で年間指導計画において扱う予定であったものが扱えなくなり、年間指導計画の作成見直しを余儀なくされている。多数の学校で生じているため、本部会での検討も必要となる。

## (14) 夷隅支部 (学校数 6校 会員数11 技術科 6名 家庭科 5名)

### 1 夷隅支部研究主題

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する  
学習指導のあり方

### 2 主題設定の理由

昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実技研修に集まることができなかった。技術部会では、夷隅教育研究会の際に、「双方向性のあるコンテンツによる問題解決の指導法について」をテーマとしてレポートを持ち寄って授業実践を発表し、東上総教育事務所指導室夷隅分室の時津丈二指導主事に助言をいただいた。夷隅支部では、学校数が少ないことから、他校の指導実践について知り、研修を深めることは大変重要であり、互いに学びあう貴重な機会となった。今後、さらに地区での研修を深め、子どもたちが、情報の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けさせるためにはどのような学習指導のあり方がよいか研究を推進したい。

家庭分野では、中学生としての生活の自立を目指しつつ、他との共生を考えることが求められる。そのために、学習事項を通して自分の生活の営みを見つめ、課題を見出し、その解決に取り組むことを取り入れていきたい。その際に、生徒自身が生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を工夫することが、生きる力につながると考える。

以上のことから、夷隅支部では、技術分野と家庭分野の両方に共通する研究主題を「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活を工夫し創造する学習指導のあり方」と設定し、研究を推進することとした。

### 3 研究の概要

(1) 技術分野では、「双方向性のあるコンテンツによる問題解決の指導法について」を研究テーマとして、3校から発表した。

#### ① 安心して使えるメッセージ交換アプリ～SNSをつくろう～

Web教材『そねプロ』を利用すると、ブロック部品を組み合わせてプログラムを作成し、SNS画面の表示を確認することができる。また、ネットワークを経由してメッセージの送受信ができ、ペアやグループなど学習形態を変化させて表現活動を充実させることができる。双方向性のあるコンテンツとしては導入教材に向いている。

#### ② 双方向性のあるコンテンツによる学習

『プログル技術』は、双方向性のあるコンテンツのプログラミングに特化した無償のプログラミング教材であり、生徒の取り組みやすさと教師の指導のしやすさを感じる。レッスンは、プログラミングだけでなく、デザイン・サーバ通信の概念やセキュリティ、マルチメディアの取扱いなどを学べるように設計されている。

#### ③ プログラミング教材を活用した問題解決

『Scratch』で「サッカーのPKのようなゲームをつくろう」という課題を設定し、プログラミングを学ばせた。そこで重要なことは、「課題を明確にし、その解決に向けた道筋を明確



に立てること」であることを体験から学ばせていきたい。

(2) 今年度も感染症への対策が欠かせない状況で授業を進めることが求められた。

実体験を伴う学習をできるだけ取り入れることを考え、感染対策を講じたうえで実習などを進めた。調理実習では、健康観察や手指の消毒、身支度やマスクの着用の徹底、黙食などの他に次のような対策を行ったうえで、実習を進めた。



① 対面での試食を避けるために机を入れ替える。

- ・本来、家庭科室にあった班ごとに使用する机を個別の机に入れ替え、全員が前を向いて試食ができるようにした。

② 消毒したトレイを使用する。

- ・配膳から試食、片付けまで、アルコール消毒をしたトレイを使用し、直接机に食器を置くことを避けるとともに、配膳や片付けの際に他の班員の食器に触れないようにする。



実際に体験したことで、調理への興味も高まった。そこで、自分の食生活の課題を考え、夏季休業を利用し、解決に向けて取り組ませ、レポートにまとめた。その際、家族からのコメントをもらうことで、家族との関わりを持てるようにした。

#### 4 成果と課題

##### <技術分野>

(1) 成果

- ・各学校の取り組みを知ることで、情報交換ができ、互いの指導法について理解が深まった。
- ・新しいアプリの特徴について、知ることができ、大変有意義な機会であった。
- ・ワークシートの作成についても、ICT機器を有効に活用した作り方を学ぶ機会になった。

(2) 課題

- ・題材となるアプリによって操作等が異なるため、指導法についてより授業実践を深め、研究する必要がある。
- ・生徒自身で課題を見つけ、その解決に向けた道筋をしっかりと考えさせることが大切であるが、授業の中でどのように考えさせるか等、その指導法について、今後も継続して研究することが課題である。

##### <家庭分野>

(1) 成果

- ・感染対策をしっかりと行うことで、調理実習に取り組むことができ、食に対する意識と共に、感染対策に対する意識の向上も図られた、
- ・家族からは「家庭の食事作りにもっと子どもを参加させたいと思った。」「思った以上に自分で作れたことに驚いた。成長を感じた。」などのコメントをいただくことができた。
- ・栄養に関する学習から自分の食生活の偏りに気づいたり、実習に取り組むことでさらに技能の向上を目指したりする生徒が多く見られた。

(2) 課題

- ・自分の生活の中から課題を見つけ取り組ませる経験を重ねることで、自分の生活をより良いものにしようという意識を持たせることができると考えるが、その継続性が今後の課題である。

## (15) 安房支部

(学校数 14校 会員数 18名 技術科 10名 家庭科 8名)

### 1. 安房支部研究主題

－ 学びを生かし，生活を創造する力を育てる指導のあり方 －

### 2. 主題設定の理由

溢れるほどのものがある時代に，技術・家庭分野の学びを生かして，児童・生徒に生活を創造する力を育てる指導のあり方をテーマに研究を進めた。

この主題を達成するためには，日々の生活に目を向けさせ，児童・生徒が自ら工夫し創造しながら意欲的に取り組める学習活動となるように，授業を改善することが必要である。安房支部では，本教科の特性を生かし，実践的・体験的活動を通して，児童・生徒が自ら課題を設定し，問題解決していく力を育てることを目指し，本主題を設定した。

### 3. 研究の概要

#### (1) 活動の概要

今年度も，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，全員が集まった研修を行うことができないことがあった。そのため，技術・家庭分野ともに，限られた授業時数の中で学習内容を指導できるように，個々で教材研究を行った。加えて，学習指導要領の内容を研修，検討し，年間指導計画や教材等の精選を行った。現在，行っている活動が，児童・生徒の生活を創造する力を育てる指導の一助となればと部会で活動している。また，安房支部の技術・家庭分野の授業に活かせるよう研鑽を積んでいる。

#### (2) 令和4年度関東甲信越ブロック技術・家庭科研究大会に向けて

安房地区は，令和4年度関東甲信越ブロック技術・家庭科研究大会のCエネルギー変換の技術の提案をする予定である。技術分野の担当者が集まり，授業班と理論班に分かれて，定期的に研修会を開催している。

#### <題材内容>

- 電気分野・運動（動力）分野のどちらをメインにするか。  
製作活動をメインにした授業を行う。
- 理論（知識）の部分の内容を充実して，まとめの内容をメインにする。  
実習は，理論の部分を利用した製作題材にする。
- クロスロード（防災カードゲーム）のような教材を作成し，生活での利用方法の視点を育てる。
- 災害から防災につなげ，エネルギー変換の利用が工夫されていることに気づける授業。例 停電→発電ラジオ ・ 停電 → 発電所や送電線の分散の工夫 など
- テーマ（視点）を生活や社会に即した内容にする。（エネルギー変換で，生徒に何を考えさせるか。）
- エネルギー変換の専門家の視点を取り入れる。

<理論について>

- 県の研究主題を受けて、安房での研究主題を検討し、決定する。  
主題設定の理由や研究内容が学習指導要領に即しているのか検討している。
- 年間指導計画、評価規準等が学習指導要領に合っているか。

(3) 主な活動

期日	会場	活動内容
4 / 2 2 (木)	富浦中学校	一斉研修日 「総会と役員選出, 行事計画の検討」
6 / 1 7 (木)	総合教育センター	小学校家庭科研修 (中央伝達) (中止)
6 / 2 4 (木)	総合教育センター	中学校技術・家庭科研修 (中央伝達) (中止)
7 / 3 0 (金)	館山中学校	小学校家庭科実技研修会 (中止) 「伝達講習」
8 / 3 (火)	館山中学校	一斉研修日② (中止) 「学習指導要領について」 「教研集会へ向けてのレポート作成」
8 / 4 (水) 5 (木)	館山中学校	実技研修会「伝達講習」 (中止)
8 / 1 8 (水)	館山市内	安房地方教育研究集会 (中止)
1 1 / 1 0 (水)	富浦中学校	一斉研修日③ 「作品展打ち合わせ, 県教研報告」
1 2 / 2 (木)	館山中学校	関ブロに向けての研修会 (技術分野担当)
1 / 2 8 (金)	安房教育会館	研修会 作品審査会
1 / 2 9 (土) 3 0 (日)	安房教育会館	小学校家庭科, 中学校技術・家庭科作品展 (中止)
2 / 4 (金)	富浦中学校	一斉研修日④ 「本年度の反省と来年度の方向性」

4. 成果と課題

技術分野では、限られた授業時数の中で、生活体験の乏しい生徒の実態を考慮した指導法の工夫として、安房支部で継続的に取り組んできた設計段階での指導を改善しながら授業を実践した。生徒自ら課題を設定し、解決しようとする態度を育むことができ、より良い生活を目指す態度の育成に繋がるものとなった。家庭分野では、中学校での正規教員が少ない中ではあるが、会員在籍校すべてが同テーマで授業実践と検討・改善を行った。日常生活に根ざした指導は、生徒の実態に即した学習支援の充実を図ることに繋がるものとなった。

今後の課題として、指導内容やカリキュラム等を考慮した、年間指導計画を改良していく必要がある。加えて、技術分野では関ブロ栃木大会に向けて、Cエネルギー変換の技術の内容で共通の授業実践を通して、生徒に「何を学ばせたいのか」、「どのように学ばせるのか」等を重視した指導計画・指導方法を提案できるようにしていきたい。

## (16) 君津支部

(学校数 74 校 会員数：小家庭科 4 名 中技術分野 17 名 中家庭科 18 名)

### 1. 君津支部研究主題

小学校家庭科 「生きる力を育む家庭科教育のあり方」  
～生活の自立と共生の基礎づくりをめざして～

中学校技術・家庭科  
「確かな知識と技術を身に付け、社会の変化に対応し生活に活かす力  
を育む学習指導のあり方」

### 2. 主題設定の理由

#### (1) 小学校家庭科

「単なるものづくり」や「調べ学習」ではなく、生活を見つめ、課題点を見出し、解決方法を考え、実践する。このような授業展開を積み重ねることで、児童の生活を重視した価値観を育てたいという願いを込めて本主題を設定した。

#### (2) 中学校技術・家庭科

現代社会を生きていくためには、生徒の問題解決能力を育む学習を通して、「生きる力」を身につける必要がある。そのためには、実践の中で確かな技術や知識を身に付けた上で、課題に対する思考力や判断力、表現力を習得する学習過程が重要であると考えられる。この学習過程を通して、生徒自身が自らの課題や問題を見つけ、生活を工夫し改善する能力を育む学習指導方法を明らかにするために、本主題を設定した。

### 3. 研修の概要

#### (1) 小学校家庭科

6月には新学習指導要領における教材について、グループディスカッションを中心に各学校の実践を共有した。小学校においては、新学習指導要領の学習が始まって1年が経過し、各学校の実践も研究が進められている中で、新たな視点や指導観について学びあう良い機会となった。

7月は「生活に役立つ小物製作」を題材とした実技研修会を行った。小学生がつまずきやすい、しつけや三つ折り、ミシンの直線縫いについて指導のポイントを確認しあうことができた。材料となる生地を選択する場面では、多種の材料を用意し、その中から適切な材料を選択するなど、生活の課題を解決するための手立ての一つとして有効な場面であることを確認しあうことができた。

8月は中学校技術・家庭科と合同で、「技術・家庭科教育のGIGAスクール構想における一人一台タブレットの効果的な活用方法」について、オンラインによる実践研修を計画していた。しかし、8月以降の研修については、緊急事態宣言の発令に伴い、4市全体の研修が中止となったため、実施することができなかった。

#### (2) 中学校技術科分野

6月には新学習指導要領における指導計画と評価について、それぞれの学校の指導計画を持ち寄って、グループディスカッションにより研修を行った。新学習指導要領実施に伴い、各学校では計画や評価の見直しが行なわれる中で、ディスカッションをとおして新たな学びにつながる研修となった。また、技術分野であらたに始まる「双方向性のあるコンテンツ」では、授業で使用する教材やアプリケーションについての共有も行い、免許外の先生にとっては、これから授業を行うために、大きな学びの場となった。

8月は、実技研修および小学校家庭科、中学校家庭分野と合同で「技術・家庭科教育のGIGAスクール構想における一人一台タブレットの効果的な活用方法」について、オンラインによる実践研修を計画していた。しかし、8月以降の研修については、緊急事態宣言の発令に伴い、4市全体の研修が中止となったため、実施することができなかった。

### (3) 中学校家庭分野

6月は新学習指導要領における指導計画と評価について、それぞれの学校の指導計画を持ち寄り、家庭科を担当する教員全体で考え、題材や指導方法を議論する研修を行った。若い先生方や免許外の先生方もいる中で、新しい学びに対する題材や指導方法について考える良い研修の場となった。

8月は、実技研修および小学校家庭科、中学校家庭分野と合同で「技術・家庭科教育のGIGAスクール構想における一人一台タブレットの効果的な活用方法」について、オンラインによる実践研修を計画していた。しかし、8月以降の研修については、緊急事態宣言の発令に伴い、4市全体の研修が中止となったため、実施することができなかった。

## 4. 成果と課題

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により、すべての研修が実施できなかったが、今年度よりすべての領域で、感染症対策を講じながら、新たな研修お方法や内容について検討し、計画したすべての研修は実施できなかったものの、実施した研修ではたいへん有意義なものとなった。

### (1) 研修の成果

- ① 小学校家庭科：新学習指導要領が実施となってから1年が経過し、各学校で題材や指導方法が検討されている中、互いの学校の情報を共有し、議論することができ、新たな学びが多くあった。また、実技研修の「生活に役立つ小物製作」では、改めてミシンを使う上でのポイントや小学生のつまずきを改善する指導方法を学ぶことができ、貴重な研修の場となった。
- ② 中学校技術分野：新型コロナウイルス感染拡大により、外部の講師を招いた研修は実施できなかったものの、新学習指導要領における指導計画や評価方法、題材や指導方法等を共有することができ、有意義な研修となった。
- ③ 中学校家庭分野：新学習指導要領を実施していく上で、各学校の先生方が悩んでいた、題材や評価の方法、指導方法を共有することができた研修としての成果は大きい。互いの悩みを共有し、新たな発見へとつながる貴重な研修となった。また、免許外で担当されている先生方や若い先生方においては、指導技術のみならず、自身の知識や技能をベテランの先生から学ぶ良い機会となった。

### (2) 今後の課題

- ① 小学校家庭科：中学校家庭科との連携した研究を進める必要がある。小・中を通した指導計画などについても研修を進めていきたい。
- ② 中学校技術分野：支部としての教員間のまとまりを大切にしつつ、年々変化していく社会に目を向けていく必要があると感じた。学んだことを生かし、支部内の多くの学校で実践を進めていくことが課題である。
- ③ 中学校家庭分野：一昨年度に行った研修では、小学校の授業研究に参加したことで、小・中・高で同じような学習内容を学んでいることが分かった。中学校では学習をつなぐ役割を担っていると感じた。各部会員で実践を持ち寄り、より良い授業に向けてこれからも自己研鑽していきたい。

## 令和3年度 千教研 技術・家庭科教育部会 役員名簿

No.	役職	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	備考
1	会長	若林 雅夫	袖ヶ浦市立平川中	若林 雅夫	299-0236	袖ヶ浦市横田500	0438-75-2141	君津
2	副会長	大原 晴子	松戸市立上本郷小	大原 晴子	271-0064	松戸市上本郷3620	047-363-9278	東葛
3	副会長	近藤 昌彦	柏市立中原中	近藤 昌彦	277-0085	柏市中原1816-2	04-7166-5601	東葛
4	副会長	市原 喜郎	東金市立日吉台小	市原 喜郎	283-0803	東金市日吉台2-32-1	0475-55-5868	山武
5	副会長	伊藤 嘉章	柏市立富勢西小	伊藤 嘉章	277-0825	柏市布施84-2	04-7132-2244	東葛
6	副会長	榑原 英記	千葉市立幕張小	榑原 英記	262-0032	千葉市花見川区幕張町4-781	043-271-7511	千葉
7	副会長	豊川 ますみ	千葉市立轟町中	豊川 ますみ	263-0021	千葉市稲毛区轟町3-5-14	043-251-4305	千葉
8	副会長	迎 寿美	千葉市立葛城中	鎌野 繁	260-0853	千葉市中央区葛城2-9-1	043-227-5566	千葉
9	会計監査	下須賀 和実	船橋市立豊富中	川崎 博樹	274-0053	船橋市立豊富町12	047-457-2030	船橋
10	会計監査	岡田 一人	白子町立白濁小	大塚 猛	299-4213	長生郡白子町八斗470	0475-33-3164	長生
11	顧問	山田 克彦	千葉市立こてはし台中	山田 克彦	262-0005	千葉市花見川区こてはし台5-15-1	043-259-1336	千葉
12	研究部長	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中	藤川 大祐	263-8522	千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-2493	千葉
13	研究副部長	田村 真理	千葉市立扇田小学校	田村 真理	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央1-26	043-239-2700	千葉
14	研究副部長	渡邊 宏幸	君津市立君津中	大久保克己	299-1163	君津市笠師1-10-1	0439-52-0113	君津
15	研究副部長	佐藤 理恵子	四街道市立山梨小	安部 健	284-0024	四街道市旭ヶ丘1-9-12	043-432-0506	印旛
16	研究部員	内藤 利枝子	千葉市立末広中	千葉 直敏	260-0843	千葉市中央区末広2-10-1	043-265-1818	千葉
17	研究部員	白井 隆太	館山市立館山中	吉田慎一郎	294-0037	館山市長須賀136番地	0470-22-0531	安房
18	中学校部長	後藤 恒治	白子町立白子中	中田 宏	299-4215	長生郡白子町中里860	0475-33-2152	長生
19	中学校副部長	北島 啓行	千葉市立貝塚中	北島 啓行	264-0020	千葉市若葉区貝塚1-7-1	043-231-7077	千葉
20	中学校副部長	宮内 雅史	市原市立菊間中	宮内 雅史	290-0007	市原市菊間1850	0436-41-3618	市原
21	中学校副部長	吉田 健	佐倉市立根郷中	宗政 隆雄	285-0807	佐倉市山王2-37-1	043-483-1000	印旛
22	中学校副部長	田邊 暁子	東金市立東金中	今井 清仁	283-0063	東金市堀上111	0475-52-4195	山武
23	中学校副部長	宮内 百枝	旭市立干潟中	遠藤 忠義	289-0515	旭市入野2170	0479-68-2456	東総
24	中学校部員	平 大樹	流山市立西初石中	高柴 昭宏	270-0121	流山市西初石4-455-1	04-7154-3091	東葛
25	中学校部員	岡本 誠一	君津市立周西中	北見 文雄	299-1142	君津市坂田560	0439-52-1517	君津
26	中学校部員	小嶋 健一	松戸市立小金中	中道 俊一	270-0032	松戸市新松戸北2-16-11	047-341-0646	東葛
27	中学校部員	横山 由佳子	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	千葉
28	中学校部員	船迫 千春	松戸市立松戸一中	久保木晃一	271-0076	松戸市岩瀬587	047-363-4171	東葛
29	中学校部員	金谷 淳子	旭市立海上中	岩波 浩之	289-2604	旭市高生77	0479-55-2150	東総
30	中学校部員	屋代 奏絵	船橋市立葛飾中学校	大野 等	273-0039	船橋市印内1-5-1	047-431-2692	船橋
31	小学校部長	大原 晴子	松戸市立上本郷小	大原 晴子	271-0064	松戸市上本郷3620	047-363-9278	東葛
32	小学校副部長	前田 真帆	千葉市立生浜西小	前田 真帆	260-0823	千葉市中央区塩田町316-1	043-264-0013	千葉
33	小学校副部長	児玉 喜久子	佐倉市立千代田小	高井 亮一	285-0834	佐倉市吉見553	043-487-3140	印旛
34	小学校副部長	鳥羽 波峰	千葉市立新宿小	山下 敦史	260-0021	千葉市中央区新宿2-15-1	043-242-0631	千葉
35	小学校副部長	福島 理恵	柏市立豊小	赤澤 敏樹	277-0863	柏市豊四季610-2	04-7174-0755	東葛
36	調査編集部長	江原 雅之	佐倉市立白井中	相蘇 重晴	285-0863	佐倉市白井1530	043-489-5635	印旛
37	調査編集副部長	押元 和	南房総市立嶺南中	三平 智子	299-2526	南房総市沓見2075	0470-46-2142	安房
38	調査編集部員	長野 翔伍	船橋市立二宮中	安永 賢	274-0074	船橋市滝台1-2-1	047-466-2453	船橋
39	広報部長	伊藤 芳仁	千葉市立松ヶ丘中	伊藤 芳仁	260-0807	千葉市中央区松ヶ丘町440	043-261-5261	千葉
40	広報副部長	宮原 尚	千葉市立高洲小	宮原 尚	261-0004	千葉市美浜区高洲2-2-20	043-243-0169	千葉
41	広報部員	大野 忠	千葉市立松ヶ丘中	伊藤 芳仁	260-0807	千葉市中央区松ヶ丘町440	043-261-5261	千葉
42	情報部長	野村 英二	佐倉市立佐倉東中	野村 英二	285-0046	佐倉市高岡423-1	043-486-3031	印旛
43	情報副部長	佐野 貴紀	木更津市立清川中	出口 雅志	292-0035	木更津市中尾1096	0438-98-0188	君津
44	情報部員	藤田 伸平	香取市立栗源中学校	石田 英一	287-0102	香取市岩部1051-1	0478-75-2034	香取
45	情報部員	依田 実	船橋市立御滝中	河上 俊和	273-0853	船橋市金杉6-5-1	047-448-3102	船橋
46	情報部員	菅 整	千葉市立大椎中	神戸 重彦	267-0066	千葉市緑区あすみが丘8-26	043-295-7201	千葉
47	情報部員	君塚 久美	千葉市立新宿小	山下 敦史	260-0021	千葉市中央区新宿2-15-1	043-242-0631	千葉
48	事務局局長	鈴木 健一	千葉市立更科中	武満 直登	265-0073	千葉市若葉区更科町2112	043-239-0030	千葉
49	事務局次長	海老原 恭子	富里市立富里北中	松岡 薫	286-0202	富里市日吉倉1 5 1 5-3 1	0476-93-9508	印旛
50	事務局次長	古屋 義和	市原市立有秋中	鎗田 昭	299-0115	市原市不入斗1200	0436-66-1066	市原
51	事務局員	三瓶 繁義	富津市立天羽中	高鍋 元博	299-1608	富津市岩坂109	0439-67-0615	君津
52	事務局員	飯塚 嶺	茂原市立東中	田中 弘樹	297-0017	茂原市東郷301	0475-24-2141	長生
53	事務局員	佐藤 翔	千葉市立作新小	高橋 毅	262-0045	千葉市花見川区作新台7-2-1	043-257-0927	千葉
54	事務局員	吉井 達哉	成田市立玉造中	平川 千秋	286-0011	成田市玉造3-7	0476-27-0677	印旛
55	事務局員	淡路 倫子	袖ヶ浦市立昭和和	林 健司	299-0257	袖ヶ浦市神納3204	0438-62-2034	君津
56	事務局員	林 仁美	成田市立成田中	濱谷 昌人	286-0021	成田市土屋928-1	0476-22-0304	印旛

<支部理事>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	F A X
1	千葉	大西 徹	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市原	山本 友子	市原市立姉崎東中	栗原 朗	299-0111	市原市姉崎3056-1	0436-61-6411	61-1459
3	習志野	池上 吐夢	習志野市立第七中	池上 吐夢	275-0022	習志野市香澄6-1-1	047-451-8151	451-8150
4	八千代	入江 良子	八千代市立村上中	兒玉 健司	276-0028	八千代市村上1643-55	047-482-3121	482-3193
5	船橋	下須賀 和実	船橋市立豊富中	川崎 博樹	274-0053	船橋市豊富町12	047-457-2030	457-2039
6	市川	松田 智	市川市立宮久保小	松田 智	272-0822	市川市宮久保5-7-1	047-371-2747	371-2748
7	浦安	山田 裕弘	浦安市立堀江中	山田 裕弘	279-0043	浦安市富士見2-19-1	047-352-7272	380-4301
8	東葛飾	町田 常雄	野田市立二川中	町田 常雄	270-0213	野田市桐ヶ作418	04-7196-0004	7196-4665
9	印旛	野村 英二	佐倉市立佐倉東中	野村 英二	285-0046	佐倉市高岡423-1	043-486-3031	486-2096
10	香取	敷合 克之	香取市立香取中学校	小早志昭夫	287-0011	香取市津宮1440	0478-50-5000	57-0190
11	東総	角田 直彦	匝瑳市立須賀小	角田 直彦	289-2132	匝瑳市高1956	0479-72-0476	70-2043
12	山武	林 正浩	大網白里市立白里中学校	山本 良雄	299-3211	大網白里市細草1385-1	0475-77-2840	77-4694
13	長生	岡田 一人	白子町立白瀧小	大塚 猛	299-4213	長生郡白子町八斗470	0475-33-3164	33-7462
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立岬中	浅尾 公司	299-4501	いすみ市岬町椎木1370	0470-87-2511	87-2587
15	安房	御子神 潤一	南房総市立富浦中	御子神潤一	299-2416	南房総市富浦町青木249-1	0470-33-2075	33-4729
16	君津	宮崎 由美子	君津市立貞元小	宮崎由美子	299-1138	君津市上湯江1655	0439-52-0018	52-0275

<支部事務局長>

No.	支部名	氏名	勤務校	校長名	郵便番号	学校所在地	電話番号	F A X
1	千葉	大橋 宏嗣	千葉市立泉谷中	大西 徹	266-0032	千葉市緑区おゆみ野中央4-2	043-291-6600	291-5247
2	市原	古屋 義和	市原市立有秋中	鎗田 昭	299-0115	市原市不入斗1200	0436-66-1066	66-8704
3	習志野	飯野 国夫	習志野市立第七中	池上 吐夢	275-0022	習志野市香澄6-1-1	047-451-8151	451-8150
4	八千代	佐藤 和幸	八千代市立大和田中学校	山根 弘行	276-0044	八千代市萱田町645	047-484-5071	484-6716
5	船橋	七戸 亮太	船橋市立八木が谷中	森畑 敏昭	274-0802	船橋市八木が谷2-9-1	047-447-1455	447-1456
6	市川	田代 邦子	市川市立国分小	田代 邦子	272-0833	市川市東国分2-4-1	047-371-6793	371-6794
7	浦安	松田 謙	浦安市立美浜中	矢ヶ部潤之介	279-0011	浦安市美浜5-12-2	047-354-1199	380-4304
8	東葛飾	松尾 将宏	野田市立南部中学校	山田 桂一	278-0026	野田市花井67	04-7122-2508	7122-7698
9	印旛	加藤 恒樹	印西市立印西中	渡邊 義規	270-1327	印西市大森2244	0476-42-3151	42-3649
10	香取	東 裕一郎	多古町立多古中学校	平山 博久	289-2241	香取郡多古町多古2920	0479-76-5261	76-5262
11	東総	羽根田 学	匝瑳市立八日市場二中	加藤 雅博	289-2144	匝瑳市八日市場イ1687	0479-72-1375	72-1376
12	山武	吉田 樹央	東金市立西中	石原 信行	283-0811	東金市台方1327-1	0475-55-5876	55-5877
13	長生	阿部 豊	茂原市立茂原中	永島 謙	297-0029	茂原市高師427	0475-22-2320	25-9373
14	夷隅	芝崎 丈太	いすみ市立岬中	浅尾 公司	299-4501	いすみ市岬町椎木1370	0470-87-2511	87-2587
15	安房	山田 裕也	南房総市立富浦中	御子神潤一	299-2416	南房総市富浦町青木249-1	0470-33-2075	33-4729
16	君津	岡本 誠士	君津市立周西中	北見 文雄	299-1142	君津市坂田560	0439-52-1517	52-1844

## 6 編集後記

ワクチン接種など感染症対策が進む一方、新たな変異株の出現など新型コロナウイルス感染症についてはまだまだ先が見えない状況となっています。そのような中でも、今年度の印象に残る出来事として東京オリンピック・パラリンピックがありました。選手たちの活躍は勇気や感動を与えてくれました。

教育界では、中学校で新学習指導要領が全面実施となりました。評価の仕方など戸惑う点もたくさんありましたが、コロナ禍でのリモート授業などICTの新たな可能性が発見できたように思います。

各支部の実践におかれましても、制限の多い中での研究の進め方など、たくさんのご苦勞があったと思います。それと同時に、多くの工夫や新たな取り組みがなされたと思います。そして、今年度も皆様のご協力により「研究のまとめ」を作成することができました。この1冊にある多くの実践は、今後の活動に対する大きな刺激や意欲化につながると考えます。原稿執筆に関わった先生方、本当にありがとうございました。また、今後ともご協力をお願いいたします。

令和3年度「研究のまとめ」

発行日 令和4年2月11日

発行者 千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会

代表者 若林 雅夫

編集者 研究部

三宅 健次（千葉大学教育学部附属中学校）

田村 真理（千葉市立扇田小学校）

渡邊 宏幸（君津市立君津中学校）

佐藤理恵子（四街道市立山梨小学校）

内藤利枝子（千葉市立末広中学校）

白井 隆太（館山市立館山中学校）

## 顧問

佐藤 紀夫	菊池 和子	毛利 洋一	関下 裕文	中山 米司	吉原 サト
大塚 文恵	田野 定男	田野キヨエ	福山 武夫	山本恵美子	蜂谷 昭夫
板倉 英雄	大嶋 六彦	内山 猛	上原 利雄	野呂 徳則	齊藤 俊夫
山中 家道	石橋富士夫	大野 伸子	関 弘子	佐藤 純次	畠山 和夫
矢崎 聖二	鈴木 定夫	杉本 清	石野 清恵	菅藤 孝	町田 達雄
鈴木 芳郎	山本 嘉則	加藤 勇	松岡 和美	庄司 佳子	田島 治子
青木 清一	品地 敏明	宮坂 敬章	天野新太郎	飯塚 清	戸井 康子
高山 玲子	相京 貢	浅岡 正人	小出 泰幸	萬崎 保子	